

第二章

中四国学生剣道連盟
四〇年のあゆみ

戦後剣道の復活に貢献

故・津田誠次先生

初代会長



岡山赤十字病院 大塚康吉



「大正一四年二月津田誠次教授が赴任し、以後三年の長きにわたり第二外科を主宰、名実ともに今日の教室の伝統を確立した。」

教授は東京帝国大学医科大学卒業後、当時の第二外科教室佐藤三吉教授の門下に入り、わずか二年後に台湾総督府医学専門学校教授として赴任、その後留学し帰朝後本学に転任したもので、その時まだ三〇歳に達したばかりであった。教授は、鹿児島市の出身で、七高造士館時代より剣道に精進、心身を鍛錬し薩摩隼人としての誇りを身につけて「和をもって貴しとなす」「敬天愛人」の精神をもって在職中一貫し、真摯な学究的態度とともに人間形成の面において門下生に大きな影響を与えた。

昭和二年五月、教授は日本外科学会会長として第五回日本外科学会総会を主宰した。それまで外科学会総会はおもっぱら東京、京都、大阪の三大都市で開催され、地方において行なわれるのは稀であった。

（岡山大学医学部百年史より）

先生は昭和三年より終戦まで岡山医科大学剣道部長を務められ、この間に岡山医科大学剣道部が主催し、戦争直前の昭和一五年まで一五回続いた全国高等学校、専門学校剣道大会を責任者として開催され、当時の優勝旗が、現在も岡山大学医学部剣道部長産賀教授室に保管されております。また昭和六年、その葉の形は剣を表し、語韻は尚武に通ずるということから、菖蒲会と名付けられた剣道部後援を目的とした剣道部OB会を創設され、現在も続いているなど学生剣道を愛し、その育成に努められました。

戦後の剣道ブランクの時期が過ぎ、昭和二十七年に

発足した岡山県剣道連盟の初代会長として剣道の復活に多大な貢献をされ、次いで中国学生剣道連盟会長を務められました。最初から最後まで終始姿勢を崩すことなく観戦されていたのが印象的であったと、試合に出た方が話されていました。

私は第二外科へ入局後まもなく、当時岡山労災病院長であられた津田先生が顧問として週一回来院され総回診されていた病院へ出向しました。学生時代剣道部での面識があるのを幸い、先輩に尻を引く張られるくらい遠慮なく質問をしていました。ある時、珍しい病気の患者さんがあり、調べたことを得意げに申し上げたところ、次の週には労災病院で最近買ったものが詳しく記載されているから、一週間君に貸すから読むようにと、分厚いドイツ語の本を貸していただいたことがありました。

また逸話として、岡山へ赴任される直前の台湾でのこと、夜中に先生のお宅に押し入った刃物を持った強盗を見事に取り押さえたという武勇伝を、菖蒲会の席で砂田先生（津田先生の後任）が披露されたことがありました。この時津田先生は静かに「あの時は僕も若かったからなあ」と三〇年前を思い出しながら話されました。津田先生は昭和四七年、砂田先生は昭和六三年ご逝去されました。両先生のご冥福をお祈りします。

私は岡山県学生剣道連盟OB会会員であり、津田先生の孫弟子であるということから、津田先生について書くよう依頼されたものと思います。先生について私の知っていることは限られてはおりますが、思い付くまま書かせていただきました。

剣道に憧れた明治の男

故・中塚正行先生

第二代会長

元広島大学助教授

荒谷春恵



「学生時代こそは人生の華である」と常々語っておられた中塚正行先生は、明治四四年熊本県生まれ、同御船中学校、佐賀高等学校、そして長崎医科大学を通じて、スポーツ万能で、またお好きでした。当時、剣道・柔道は旧制中学校では正課でありました。高等学校では、他の高等学校との団体の対抗戦で、強敵となった選手間に育まれる友情を終生大切にされたと聞いております。剣道―武道への憧れは、その道義が、即ち心の鍛錬にあるとの信念をお持ちでした。

先生のご生涯は、医学教育（薬理学）と研究一筋の道でした。因みに、生涯の研究テーマである化学療法薬―抗生物質の薬理では第一人者として高く評価されています。

四〇歳頃から白髪、老眼で、学生からご老体といったわられながら、喜々として道場で汗を流しておられました。

どのような経緯で会長をなさいましたのか、三〇年も前のこと思い出せませんが、昭和四一年から四四年は、広島大学医学部長・広島大学評議員でした。連日ご多忙のご様子でしたが、部長室や教室には学生がよく訪ねており、身を乗り出すように大きな笑聲で話し合っており、とても楽しそうでした。弟子である教室の者は昼食時、図書室で研究の進行報告や討論をしたりしており、その時に、中四国学生

剣道連盟の話をして、嬉しそうに話題としておられました。

ところで、中四国では歴史に残る剣客も二、三は伝えられますが、瀬戸内海は文化や物流の本道で、北前船は日本海を北上して北海道へ、山陽道、山陰道、そして西海道（南海から）を剣客達は、剣の道―兵法の究極を求め旅寝を重ね、諸処で武芸啓蒙の逸話が残っております。現代の型（直ぐ立ち）となつたのは、鎧兜の着用がすたれた頃かと存じますが、青眼・八双・斜の構・裂帛の気合、これこそは、青春のエネルギーでしょう。

会長をしておられた昭和四一―四三年頃は、あたかも中華人民共和国は、毛語録―文化大革命で荒んでおり、日本も学園紛争―壁新聞などで騒然としていました。それ故に、武道の歴史と真理の中に、未来像を模索する心の支えとなったと信じます。

その後、中塚正行先生は、長崎大学長（紛争終結）、大分医科大学長（設立・開学）を歴任され、自らが計画、建立された同大学附属病院で、ご家族や多くの方々の看護の中で昇天されました。

明治の男。武道を心の支えとした男。若者と共に学び、共に汗を流し、限りなく若者を愛した医学者でした。

―付記―弟子の一人として、当時の記憶をたどりながら、お人柄の一端を記しました。



11年の長きにわたって

故・隅田哲司先生

第四代会長

修道学園事務長

仲井正美



学園祭で胴上げされる隅田先生

隅田哲司先生が広島修道大学第五代会長に就任されたのは昭和四十八年で、先生が四七歳の時であった。当時、本学は観音キャンパスから沼田キャンパスへの移転、単科大学から人文学部、法学部増設による文系総合大学への発展、広島商科大学から広島修道大学への大学名の変更、さらに高度な大学院の増設等大変重要な節目のときにあたり、これらの本学の基礎は隅田学長時代に定まったといっても過言ではない。本学のその後の指針となった「新大学建設長期基本計画案」は隅田先生自身の起草によるものである。

隅田先生は商学部管理科学科(昭和四四年)、大学院商学研究科(昭和四六年)、人文学部(昭和四八年)、法学部(昭和五一年)、大学院人文科学研究科(昭和五三年)等の新増設の中心となり、率先垂範、文字どおり東奔西走し、本学の発展に尽くされた。

隅田先生は学生愛唱歌「瀬戸の四季」を作詞し、開学間もない本学の学生の志気を高揚させた。また、サークルの育成にも精力的で自動車部、山岳部、剣道部、軽音楽部、スキー部、ゴルフ部と、たのまれれば部長、顧問を引き受け、多忙のなか誠意をもって学生の育成にあたられたことは忘れることができない。

昭和四九年、本学が沼田キャンパスへ総合移転のとき、当時の剣道部員がアルバイトで移転作業にかかり、その仕事ぶりにほれて隅田学長が剣道部顧問となられたという。そして請われて中四国学生剣道連盟会長となられ、昭和四九年から昭和六〇年まで一年間つとめられた。会長就任以来の中四国学生剣道連盟会長としての挨拶の記録をみると「礼に始まって、礼に終わる。相手の人格を尊重し、礼儀が重んじられる剣道」「剣の道を志し、青春のエネ

ルギーを剣の道にぶっつけ、燃焼させ、何ものにもかえがたい若さと無限の可能性を」と剣道を愛する者への限らない愛情と激励が語られており、今も我々の胸を打つのである。

なかでも、昭和五三年七月、第七回全日本学生選抜地域対抗剣道大会及び第一回全日本女子学生選抜地域対抗剣道大会において、これまで連盟で行なったことのなかった「記者発表」のセッティングをされたことは特記すべきことであった。隅田先生は常に学生と共にある方であった。広島修道大学OBの市原則之氏(ロス五輪ハンドボール日本総監督、湧永製薬)、田口信教氏(ミュンヘン五輪金メダリスト、鹿屋体育大教授)、福井悦郎氏(昭和六二年全日本剣道選手権大会第三位、広島県警)らは隅田先生の薫陶をうけて育った人達である。

〈主な略歴〉

昭和二七年広島文理科大学史学科西洋史学専攻卒業、同三〇年広島大学助手、同三五年広島商科大学(現在の広島修道大学)講師、助教授を経て、同四一年教授。図書館長、学長代行、研究科長、学長を歴任。文学博士(広島大学)、広島地方労働委員会委員、日本私立大学連盟理事、広島県総合開発審議会委員、学術審議会専門委員。

平成二年四月四日、金沢市で逝去。勲三等瑞宝章受章。享年六四歳。

〈主な著書〉

「イギリス財政史研究」ミネルヴァ書房
「イギリス貿易政策史研究」ミネルヴァ書房
「ネフ著一六・七世紀の産業と政治——フランスとイギリス」(共訳) 未来社など。

(記・広島修道大学第一期生、隅田ゼミOB)

最後の稽古まで

故・大森玄伯先生

第五代会長

中四国学生剣道連盟常任顧問

植田 一



平成四年二月五・六日の両日、東京学士会館で(財)全日本剣道連盟常任理事会、全国理事長会議があり、副会長として列席中、大森先生御令聞逝去の訃報を知り、帰宅後広島県剣道連盟から財団法人設立祝賀会での祝辞依頼を受けていたのを機に、早速一日広島県へうかがった。

式会場で、糟糠の妻を亡くして未だ数日しか経っていない玄伯兄のやつれた顔を見て、非常に胸に迫るものを感じ、くれぐれも元氣を出すようにと繰り返し広島を後にした。

三月二八日明治村八段戦の前日、宿舎名鉄犬山ホテルで再会、一か月半を経てやっと元氣をとり戻している姿にひと安心、夕食のおり水割りをうまそうに楽しんでニコニコしていた玄伯兄の笑顔が今も懐しく目に浮かんで来る。

翌日の大会では最後の決勝戦で主審、副審と一緒に願い、帰途名古屋駅で(毎年駅構内の中華料理店で紹興酒を飲みながら食事を共にするのが常であるが、この日に限って玄伯兄は翌朝出発の都合上、早い列車で帰ったので)、そのままお別れをした。

私は家で次の日ゆっくり休養できたが、律儀な彼は疲れを顧みず、直ちに松山における広大生の訓練に同行し、翌三月三一日朝稽古の指導中倒れられたのである。

四月二日の葬儀に参列して棺の中で眠る玄伯兄に、永きにわたった深い友情を感謝し、心からお別れを申し上げておいた。

考えてみると玄伯兄と私は同じような道を歩いて来た。戦前は共に学校教師、戦後学校を辞めて他所への就職、夫々の県警師範、広大・香大の師範、中

四国学生剣道連盟、県剣連、全剣連の各役員、審査会、講習会、会議、大会への出席、それに範士九段と全く珍しく同じ道を同じように仲良く過ごしてきた、私にとっては人生最高の友であったと思っている。

玄伯兄は拙守求真とか言って謙遜しているが、なかなかどうして実の名剣士で、私はいつも尊敬称嘆を惜しまなかった。ある年、埼玉県解脫道場での稽古後、大島全剣連会長や堀口清先生等とお話していた折、本日の稽古中最も遣いづりが立派だったのは、大森範士であったと期せずして一致したことがあった。

玄伯兄は年をとってからますます稽古に磨きがかかり、位と風格を増して来ていたように思う。それは年齢を考えない常々の真剣な修業と、正しい心構えの積み重ねがあつて始めてできたもので、その上また極めて謙虚で、人を立てることがまことに上手、私など全く頭が下がる思いで一杯であった。

また上京の都度必ず斉村先生や堀口先生等の墓参に行っていたことはなかなか通常の人ではできないことで、こうした先生の心の持ち方、態度が自然に無言の教えとなっていたことを十分考えてみる必要がある。剣道の教師は教育者であらねばならぬが、口先だけではなく、身を以て範を示すことのできた貴重な指導者であったと思っている。

毎年八月、広島における中四国学生剣道大会の前日玄伯兄の墓詣りに行く。友はそこに眠っているが話すことができない。声を聞けずに寂しい気持ちで墓地去るが、しかし玄伯兄の温かいあの偉大な心は、常に私のこの胸の中にしっかりと生き続けている。

中四国学生剣道連盟四〇年のあゆみ

大塚 忠義

はじめに

すでに昭和二八（一九五三）年から昭和四〇（六五）年までの中四国連盟の歩みは、全日本学生連盟編「四〇周年記念誌」に掲載されている。

ここではその後、新たに判明したことを中心に連盟の歩みを整理しておく。資料の不備と時間の不足のために、次のように整理しておきたい。①ある年度の幹事長の日誌、②連盟が開催した大会の推移、③歴代会長等のご挨拶の推移、④加盟校の推移、⑤役員の変化、⑥規約の変化である。今後、各大学の部史等の資料や幹部会の議事録をもとに正確で構造的な歴史が描かれることを願望している。

Ⅰ ある年度の幹事長の日誌

ここに数冊の大学ノートがある。歴代の幹事長が在任期間中にその活動をメモしたものである。彼らは明らかに裏方であった。では私たちはその活動の詳細や苦勞のどれほどを知っているのだろうか。この日誌は

やや冗長になると思われるが、是非とも現役の学生、審判員、諸先生方、そして卒業していった多くのみなさんが知っておかなければならないと思う。あえて冒頭に引用しておきたい。

昭和37年4月25日 中四国連盟幹事会報告

去る四月二二日(土)午後一時より岡山大学において行なわれました表記幹事会の席上で左記の事項が決定致しました。

出席大学・岡山大学・香川大学・鳥取大学・広島大学・山口大学・広島商科大学
一、昭和三十六年度中四国連盟決算報告
会計担当の香川大学より未だ準備のできていない旨報告があり、追って各大学へ通知することとあります。

尚、本年度会計は岡山大学が担当します。よろしく願います。

二、昭和三七年度大会スケジュール

全日本個人戦予選兼中四国学生剣道大会

五月二〇日(日) 主管 鳥取大学

全日本団体戦予選兼中四国学生剣道大会

九月初旬 主管 岡山大学

三、広島商科大学（四年制）加盟の件

愛媛大学・岡山大学・海上保安大学・香川大

学・高知大学・島根大学・鳥取大学・広島大学・広島商科大学・松山商科大学・山口大学

四、短期大学加盟の件

全日本学生剣道連盟の申し送り事項として、短期大学の加盟は認めないことになり、本連盟としても一応これに沿うことになりました。

但し、全日本連盟に無関係の試合（現在、春の中四国大会団体戦のみ）だけでもよいから、加盟して参加したいという短期大学があれば加盟を認めることにしました。

尚、広島農業短期大学は本連盟に加盟していなかったことを確認。改めて右の条件付き加盟をするか否か問い合わせることになりました。

五、高知大学除名問題

高知大学剣道部は最近本連盟に対する態度がきわめてあいまいであり、また中四国連盟費・全日本連盟費の滞納が重なり、試合参加も不規則であります。

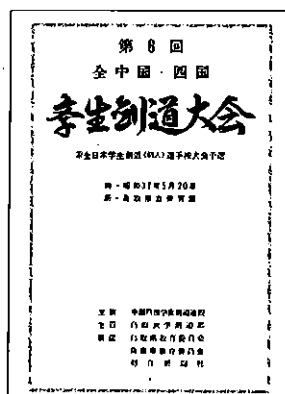
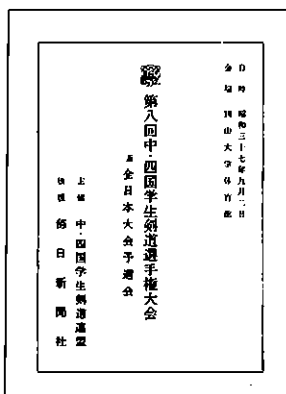
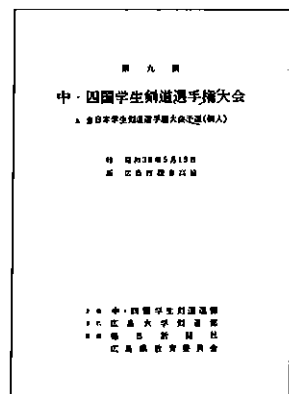
このため除名問題が持ち上がったのですが、本幹事会ではもう一度高知大学剣道部に対して態度を明らかにするよう勧告し、その回答を待つて善処するということになりました。

六、試合出場資格の件

この問題も全日本学生剣道連盟の申し送り事項を採用することに致しました。

試合出場資格

学生剣道連盟主催の試合出場資格は、学剣連に部員登録を行ない且つ学剣連で認証された者に限り与えられる。登録については左の要領で行なう。



- 1、学剣連登録は新制大学において剣道部員資格を有する者に限る。
- 2、年齢は満二七歳以下とする（二七歳は認められる）。
- 3、在学中の登録数は四回とする。但し医学部は六回とする。
- 4、休学の場合は、その年の最初の連盟大会のメンバー締め切り前日迄に大学の休学証明書がある者のみ登録取り消しを認める。
- 5、落第の場合は上級学年に進級する迄登録資格を有しない。
- 6、転学の場合は転入学年度より登録を認める。
- 7、この限りにあらずる場合は幹事会において検討する。

七、昭和三十八年度大会担当大学

全日本個人戦予選兼中四国体（春）

—— 広島大学

●昭和41年1月6日

新年おめでとうございます。

昨年は全日本三校出場をはじめ、中四連盟にとって一段と飛躍した年であったのではないかと考えます。今年はさらに質の向上が追求されたいものです。さて四一年度の中四国学生剣道連盟春・秋大会の主管校につき御相談申し上げたいと存じます。

昨年四月の幹事会において、春大会主管校に島根大、秋大会候補に香川大・高知大・愛媛大が決定しております。ところがその後広島大剣道部より広大が今年大学創立一五周年を迎えるので、春か秋の大会、できるだけ秋の大会を広大で開かせてほしいという要望がありました。早速広大をはじめ若干の各校剣道部の意見を聞き、これと幹事会決定を基にして、一つの案を作成いたしましたので御検討願いたいと存じます。

〔案〕

春期大会主管校 島根大学
秋期大会主管校 広島大学

〔理由〕

まず広大に、開校一五周年ということで大大会開催を熱望している。二、四一年度幹事校。三、

三十八年春大会以後主管校を担当していない。四、大会主管校として十分な力量を備えている。より大会、特に秋期大会を主管していただきたい。次に春大会のそれは候補内より選ぶべきであろう。候補内より高知大を除きその中より島根大を一、春期大会候補。二、近年大会が山陰で開かれていない。三、島根大剣道部の大きな発展を期したい。より春期大会主管校とする。以上、この案では広大で大会を開きたい。それもぜひ秋の大会を望んだ結果であります。候補内における主管校選定は幹事長が条件に応じて行なうという幹事会決定であります。候補に上がっていない広大を主管校に決めるのは幹事会の席上で行なわれるべきものであります。幹事会是一年間の活動方針が定まる三月下旬の全日本幹事会の後、開かれるのが望ましいと考えます。

しかし、春の主管校決定は四月になってからでは遅すぎます。それらの条件から便書による方法を採用した訳ですが、この案に対し大多数の御賛同がありますれば、四月の幹事会で確認すること直ちに実行に移したいと考えます。もし意見が分かれた場合は、若干の不都合な面も生じますが、幹事会を三月上旬・中旬に早めて決定したいと存じます。

以上この案に対して、御意見・御要望を一月二〇日までにお送り下さい。最後になりましたが、次期幹事長候補に広島大学剣道部仲井三友君が決まりました。私同様よろしくお願い申し上げます。

昭和四一年一月六日

各校剣道部幹事殿 幹事長 谷 準一

●昭和40年5月6日

高知大学より除名問題への返信

前略 再三再四による勧告通知に対し、何等の連絡をしなかったことをお詫びします。

中四国剣連に於ける当剣道部の立場を知ったのが四月過ぎであったので、急ぎ顧問教官とも相談した結果、当剣道部としては除名理由を認め、その処置を中四国剣連にまかせるということになりました。活動の停滞も事実です。

念願の道場が建てられ、部としては今年度、一

から出直そうと部員一同張り切っていますが、現在の状態では連盟に加盟することは無理だし、その段階ではありません。

こういう結果になったことは残念ですが仕方ありません。

昭和四〇年五月六日

高知大学剣道部 平山 哲

中四国学生剣道連盟幹事長 谷 準一 殿

●昭和41年除名解除への一步

拝啓

酷暑の候、貴剣道部にありましてはますます御盛んのこととお慶び申し上げます。

実は高知大学剣道部に関係したことで、あなた様のお指図を仰ぎたく、このような手紙を認めました。

すでに御承知かと思いますが、昨年の四月、高知大学は中四国剣道連盟より除名されております。当時高知大剣道部は、創立来の底にあり、連盟よりの数知れない勧告も、どうしようもなかったため、除名よりも先に部の再建を目標と致しました。そのため連盟より「除名」されました。

今年、四国大学総合体育大会において優勝こそしなかったが、準優勝をしました。部員の意欲を伸ばすためにも、ぜひ、連盟に復帰致したいと思っております。香大、徳大、その他の四国の大学の方達も復帰を促してくれております。

聞くとところによりますと、九月一日に広島で中四国の大会があるそうで、八月一五日までに連絡するようにとのことでした。私共もそれにぜひ参加致したいと、強く望んでおります。

いかがでしょうか、虫のよい考えと思われるでしょうが、出場できますようにお取り計らい願えれば、幸いです。

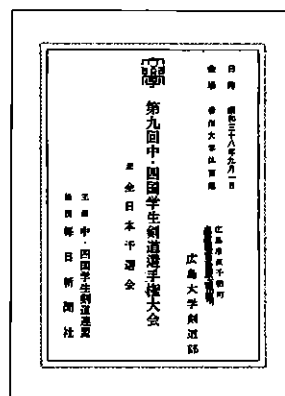
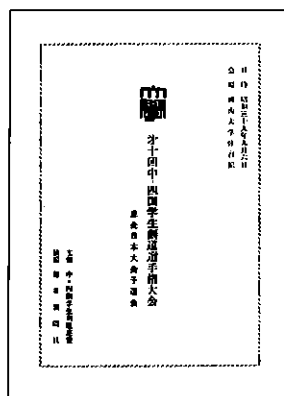
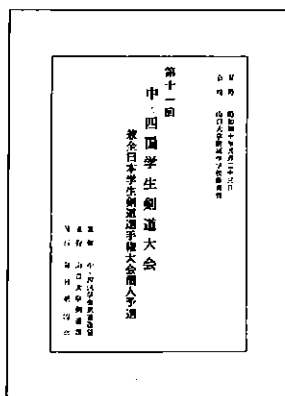
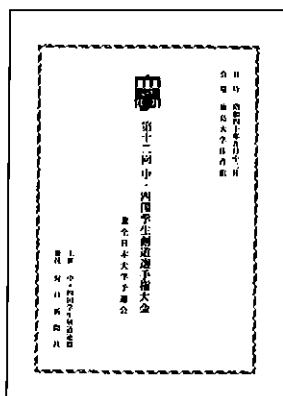
返信用の封筒を同封致しておきますので、宜しくお願い致します。

佐川 雅孝様 敬具

高知大学剣道部 主将 河村 学

●ある幹事のメモより

○昭和60年12月5日



青野先生 TEL
評議員酒井先生

竹長 十青木先生で
渡辺

大森先生にもう一度相談願う

「準備会議でもう一度定員から話し合え」
当日植田先生と打ち合わせ

●年度不明7月24日

○中京大の不正行為について
不正竹刀（異物を入れた竹刀）を使用
↓中京大全員、本大会において出場停止
大会注意事項（パンフに掲載）2ヶ所
これからの処分

アー、頭が痛う
なってきた。

下市大○全員出場停止でよい（その大会のみ）
岡商大○個人戦ならその人のみ出場停止（その大会のみ）
島大○全員出場停止（そののみ）
愛大○個人ならその人ののみ

団体なら全員（そののみ）
中京について、中四連盟の意見
○今後については始末書程度でいい
但しOB、他連盟と大きく違う場合は追って連絡

1981（昭和56）年
幹事長 田村祐二の日誌メモより

11月から5月の大会、8月の大会終了まで

1月18日 最終幹事会

○1年間の総括／全日の結果報告／西日・地域対抗
○大会保険について／全日本ではかけることになった

○決算報告

○役員交代／立候補の根回しをしておく

○会計任命→山崎・高橋

○新人戦について／期日・昭和56年12月／場所・岡山／試合形式・男子団体戦・女子個人戦／試合時間・男女4分

岡大の藤井へ／パンフレットや後援のことにについて聞く／広告とはそれと違うこと／趣意書はもうすぐできる（作成中）

○人数比例制について／最低人数・最高人数でもめる／結果・最低人数8名まで出場可、ただし、登録人数まで・最高人数制限なし
○今年1年の日程

○新幹事の名前・連絡先

○女子局より報告

○抽選会を遅くしてほしいとの意見あり

○リストアップを印刷しておくのをわすれた／山大・島大・岡大・高大・香大に5名前後のリストアップをたのむ（3月はじめまで）／松商大10名／欠席の島大、徳島大には後に郵送

○欠席校／岡山商大・海保大・四国女大・島大・徳島大・農短大

1月21日 議事録・決算書などを欠席校に送る／島大・徳島大にはリストアップ用紙も

1月24日 三篠小学校にて・大森先生にリストアップ（県内分）について聞く／昨年通りでよい・植田先生に年間予定を早く知らせよ・はい

渡部先生死去

1月25日 ソフトボール大会／3位入賞

1月26日 県内分リストアップ用の往復はがき50枚程度
大森先生へのTELは8時10分ごろすること
2月17日 21日大森先生生るす

1月28日 植田先生へ挨拶状（副会長依頼 and 年間予定）
1月29日 名刺を作る 1800円程度（土曜日にできるとのこと）
今後の予定

○隅田先生へ会長依頼および年間予定
TELして日を決める（決まったら→岡野）

○大森先生宅訪問
副会長依頼

年間予定

春の中四打ち合わせ

新人戦打ち合わせ

○東洋工業体育館へ依頼状etc（8月31日）

○保険について問い合わせ→安田海上火災

○リストアップ郵送

1月29日 リストアップの印刷 河野にまかす

東洋工業体育館への依頼状→中川

愛大の阿部へTEL、女子局副局長について

連盟本部の方へ郵送してもらう

1月29日 植田先生への挨拶文の内容を考える

1月29日 新人戦趣意書 草稿できあがり

1月30日 リストアップ郵送

2月1日 福山との親睦会

2月2日 東洋工業体育館への依頼状できあがり

中四国学生剣道連盟幹事名簿はぼでできる→高橋

2月3日 東洋工業体育館へTEL 08221821111東洋工業

2時東洋工業体育館へ依頼状をもって行く

8月29日、30日を予約する、本契約はまだ後

東洋工業体育館を予約するのは、この頃がよいと思う。

2月5日 隅田先生へTEL

2月9日（月）12時45分ごろ研究室へ→会長依頼、年間計画など

大森先生へTEL

2月7日（土）1時ごろ大森先生宅→副会長依頼、年間計画など

岡野へTEL→隅田先生のところへいっしょに行

く

中川へTEL→新人戦趣意書の清書（大森先生に見せるため）

2月6日 大森先生宅へもっていくものを整理

○みやげ→CABIN10箱、2000円、SOG

○で買う

○日程表（年間計画）

○新人戦大会要項 2部

○新人戦趣意書

○個人戦人数表（春季中四） 2部

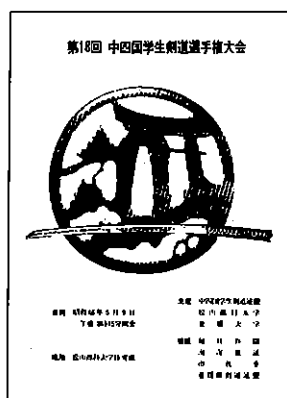
○名刺

○春の中四のパンフ

本日はよく働いた
つかれた

うまくいかない

足がつた



中川へTEL 新人戦趣意書を明日12時までにも
つてくるように
2月7日 大森先生宅訪問 2時53分30秒 バス
停にて記す

○審判員の各県別割り当てを決めてもらう
○隅田先生への訪問をするように
審判員各県別割り当て

○審判長 (岡山) 山根昇 (法政OB)

○審判主任

広島・愛媛・高知・香川・島根
永田 一 腰山 一 福田 まだ未定

○審判員

愛媛10名→松商にまかせる

広島8名

山口2名

鳥取1名

岡山2名→杉本先生に

香川4名→植田先生に

徳島2名

高知1名

計 30名 最低数

植田先生に審判長他をたずねる

○反省・新人戦の趣意書を渡せなかった
・時間ギリギリよりも余裕をもって事を行なうよ
うにすべし

・女子にはあまり仕事をまかせない方がよい。何
かとすれちがいが多い

・僕の場合は話す順序をあらかじめ決めて話す内
容も考えて行なった。だいたいそのように事が運
んだが、何があるかわからないので臨機応変にで
きるように、準備だけは十分にしておいた方がよ
い。

・本日12時45分BOX出発

中川が趣意書を持ってきたのは12時50分ごろと思
われる。ただしコピーはとってなかった。

教訓、女子にはその場でできることしか言わない
方がよい。

2月9日 隅田先生の研究室訪問/高木・岡野・
河野・永田

○名刺を渡す(いちばん最初の方がよい)

○今年も会長をよろしくお願いいたします

○日程表を渡す

・日程表には県の日程も書き添えておいた方がよ
い

・経済的なことはどうなっておるか?

・子供の頃は剣道は盛んだが、大学では人数が少
ない

・統合移動についてはどうか?

・修大の部員数などは? etc

○春の人数比例制のことを説明

○新人戦について一言→大会要項を書いていけば
よかった

反省 話のすじを考えていなかったたので、うま
く進まなかった

まず第一声は、みんなが座って落ち着いてから→
名刺

いろいろなことを話されるのでそれについていく
ので精いっぱい

2月9日 中川へTEL
関東に僕と中川の現住所、帰省先、TELナンバ
ー、役職名(常任幹事)を書いて送るように
試験がそろそろ始まる。仕事は早めに切り上げて
勉強しよう!

2月16日 試験週間突入!

BOXにて、梶田さんより住所録(リストアップ)
を受けとる

2月27日 石川よりTEL 本印と愛媛のリスト
アップを送ってくれたこと

○酒井先生より京都で大会があり5月10日には審
判員が集まらないのでは?

大森先生におたずねするよう

3月2日 リストアップ作成に着手

4月5日の定例幹事会の幹事会案内を郵送
保険について安田海上火災にTEL(3月3日た
ずねる)

○ブルーコピーの機械が来ていた。これで楽にな
る

○今月すること

・リストアップができしだい大森先生訪問

・合宿前までに登録用紙・予算案・納入金一覧表

を作成しておく、合宿が終わると次の日が幹事会
反省 リストアップは2月までに広大に着くよう
にした方がよい

リストアップが早く作成できない→審判員が早く
決まらない

最終幹事会の時リストアップ用紙を渡し、そのと
き2月までと言う

3月3日 安田海上保険へ行く(with河野)

大会保険について

名簿は前日までに知らせればよいが、土曜なので
前々日(金曜)までにはメンバー変更を知らせる
ことにする

○契約は4月中ごろ、人数が決まったとき(抽選
会のとこ)にする

○定例幹事会の時に各大学に保険をかける上に必
要な事項を伝達。メンバー表に記入するようにす
る

○金はいつあつめるか?

3月3日 石川にTEL

○大会は5月10日に決定すること

○本印はついたか→大山のところ

○保険はこちらがすべて行なうこと

会計がちがうので金はいつ集めるか→抽選会
3月5日

○来週中にリストアップを仕上げる

○リストアップができしだい松商に送る

○リストアップができしだい(さ来週中には)大
森先生宅訪問

合宿前までに審判員をある程度決めたい
幹事会準備を合宿1週間前にすませる

・予算案

・登録用紙

・メンバー表→抽選会の時に集める

・幹事名簿

・全日本予算案

・納入金一覧表→登録費明細

・松商よりの大会要項→当日松商がもってくるだ
ろう

・西日本大会要項もあるかもしれない→あれば30
校分コピー

3月7日 中川へTEL・リストアップを来週中



に仕上げておくように依頼

3月8日 帰省

3月13日 (金) 河野よりTEL 全日幹事会は

明日14日1時よりとのこと

3月13日 関西連盟の大池よりTEL 幹事会のことについての確認

幹事会の日は会計の關係で早くなったとのこと

3月13日 8時帰省 中川にTEL 明日10時広島駅集合

3月14日 幹事会へ みやげ・もみじまんじゅう

3月14日 全日本学生剣道連盟幹事会

議題

○日程

○学生大会規定

○保険

○予算案発表

○その他

○女子の竹刀……このことについて↓400g

(平均) 以上、三・八以内↓決定されていない

・男子にあって女子にないのはおかしい

・試合の平等を期するため

○春季大会に規定する

○女子の竹刀の長さを調査

調査結果を全日へ

○二刀

○胸突き

全日本(学生ではない)では行なわれているのに

学生では行なわれていない↓おかしい

・来年実施の方向で(関東)

○保険 各大会において、各連盟の分担金より

全日登録期限4月末日 6月末追加登録

5月末までには

○地域対抗について 大会正式名およびその日程

を全日へ

全日30回記念で何をするか

○女子団体戦5人戦はどうか↓九州・関西・東海

・関東は実施

全日本大会に女子団体戦を

○最終と第1回幹事会は交通費が全日より出ない

○全日登録用紙を受けとる

赤・黄各校1枚

白各大学3枚 男女は別の用紙に書く

○幹事交通費について

大阪までは新幹線or飛行機

東京までは新幹線or飛行機

3月16日 岡野よりTEL てぬぐいの台字、あ

いさつ文(隅田会長) ↓10日ごろまで

3月17日 石川に連絡すること

○女子の竹刀の重さの規定

○抽選会はいいつするか?

3月17日 4月5日の幹事会で配布するもの

○全日登録用紙(3種類) ↓4月24日(金) まで

に中四国連盟へ

○中四登録用紙(男女別々に書くようにする) ↓

抽選会まで

○春の中四の大会要項(松商がもってくる) ↓欠

席校分をもらっておく

○予算案

○納入金一覧表+全日予算案

○西日大会要項 ↓30校分そろえる ↓来なかった

(4月5日)

○幹事名簿

○メンバー表 ↓抽選会までに

(松商大がもってくるのとは別) ↓保険用

3月17日

印刷済み

○中四登録用紙

○予算案

○納入金一覧表+全日予算案

○メンバー表(男女)

印刷できていないもの

○幹事名簿

○審判員リストアップ

3月22日 早大との合同稽古会で大森先生より

審判主任永田↓中西

3月22日 石川に審判員はいつまでに決めたらよ

いか聞くこと

3月23日 石川にTEL抽選会は4月12日にする

審判員は抽選会まで(少しぐらい遅れてもよい)

3月24日 徳島大赤江に連絡がつく ↓審判員リス

トアップまったく知らず!

明日までに堀江先生に聞いておくように指示!

明日大森先生に連絡をすること ↓審判員を(決

定?) する

3月24日 幹事名簿は河野にまかせる

3月25日 形だけでも審判員リストアップを仕上

げる

ぬけている所多し ↓高知・徳島・広島の一部

3月25日 徳島大赤江よりTEL ↓リストアップ

は昨年と同じ(堀江先生に連絡済み)

3月25日 大森先生にTEL 審判員リストアップ

ができたことを伝える

審判員は春合宿中(30日ごろ)に話し合おうとの

こと

このことを河野にTEL

春合宿まで余裕ができたので、審判員リストアップ

をより完全にする

○高知大から明日にはリストアップがとどくだろ

う

4月に入っていること

○第1回定例幹事会 ↓岡山に新人戦についてど

うなっているか聞く

○審判員へTEL

○抽選会 ↓大森先生訪問

↓隅田先生へ手紙

3月29日 合宿に入る、浪花屋で大森先生にうかが

がう

審判長 山根昇(岡山) OK

審判主任 中西(広島) OK・I(愛媛) ↑松商

にまかせる

腰山(高知) OK・I(香川) ↓香川

はだめ(植田先生) ↓徳島、堀江OK

↓植田先生にうかがう

福田(島根) OK

審判員 広島7名 佐伯OK・高橋X・野崎O

K・松尾X・堀X・吉田OK・相原

島根0名

岡山2名 杉本X・山洪X

山口2名 高橋・柳OK

香川4名 ↓植田先生にうかがう 秋山

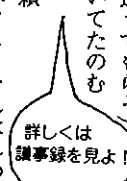
・天野OK・池田OK・松井OK・大

山OK

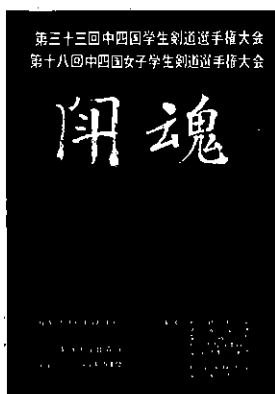


- 鳥取1名 湯村OK
徳島2名 大沢X・塩田OK
愛媛10名 1松商にまかせる
高知2名 門田OK・大塚OK・住所を調べる
審判員計30名
- 4月2日 第1回定例幹事会準備(内容)
○年間予定報告(確定している大会日程を知らせる)
○全日幹事会報告・女子の竹刀の規定400g以上
- 年間予算報告・全日(プリントをくばっておく)
・中四(会計小崎より)
○納入金一覧表などの説明
○春季大会について・女子の竹刀の制限
・メンバー表配布(記入する事項の説明)
・松商より大会要項発表
○西日本大会要項(できていれば)来ていなければ抽選会の時
○幹事名簿配布
※注意 4月5日12時にBOX、使用するもの
- 確認
幹事会欠席校のための大会要項をもらっておく
中四登録用紙は男女別によること
- 4月5日 第1回定例幹事会
①出席
②年間予定報告
使用したもの
③全日幹事会報告
・女子の竹刀の重さ↓400g以上
・女子局竹刀アンケート
・アンケート
④年間予算報告・全日予算案・納入金一覧表
・中四予算案(小崎より)
・予算案
・納入金について(ク)
⑤春季中四国大会について
・女子の竹刀の規定について
・メンバー表記載上の説明

- ・メンバー表
・保険について 1名160円
大会前日代表者会議の後集金
・松商より大会要項発表
・大会要項
・幹事名簿の誤り訂正
・名簿
- ⑥中四登録用紙の書き方について↓男女別にする(抽選会までに)
⑦全日本登録用紙↓4月24日(金)までに中四国連盟へ
↓追加登録はのちほど
抽選会でもってきてもらうもの
登録用紙・メンバー表・納入金の紙(会計用)
○高知大に大塚先生の住所を知らせてもらおう
○松商にパンフのこと、大会要項をもらおう(または大会要項を欠席校へ送ってもらう)
○岡山大学へ新人戦についてたのむ
- 4月6日 議事録を河野へ依頼
4月7日 先生方(審判員)へTELをしはじめ
石川へTEL 大会要項は欠席校へ送ったとのこと
4月9日 審判員の先生方へTEL 一段落 結果は以下の通り
審判長 山根昇(岡山) OK
審判主任 中西(広島) OK 酒井(愛媛) OK
腰山(高知) OK 堀江(徳島) OK
福田(鳥根) OK
審判員 広島7名 佐伯OK・野崎OK・吉田OK・高橋・松尾・堀(没) 相原↓電話番号まちがい、4月4日ごろ引越したらしい、往復はがきで都合を聞く↓没(はがきもどってこず)
岡山2名 杉本・山洪(没)
山口2名 楠OK・高橋↓電話番号まちがい、往復はがきで……↓没(はがきもどってこず)
香川4名 天野OK・池田OK・松井OK・大山OK・秋山↓あす昼に香川県立武道館へTEL
植田先生に5名推せんしていただいたため審判主任をいれて5名だったのに!



- 秋山OK、武道館館長あてにも文書で送る
鳥取1名 湯村OK
徳島2名 塩田OK 大沢(没)
高知2名 門田OK 大塚OK
愛媛10名
愛媛の11名をのぞく審判員は最低25名必要
現在OK17名
没6名
不明3名
計26名 1名多いのは香川県のところで1名増した
- 4月9日 抽選会が終わったあと大森先生宅訪問の予定
○抽選会の結果
○審判員リスト
○新人戦趣意書コピーをもっていくこと
※参考までに 審判員の先生方には8時すぎごろTEL
おられない事多し、何度もかける(注意、かける時間を家人に指定してもらう)
……先生のお宅ですか? 中四国学生剣道連盟の田村というのですが……先生は御在宅でしょうか、夜分失礼いたします
①先生がおられた場合 5月10日松山で行なわれます学生の大会に審判員としてお願いしたいのですが御都合の方はいかがでしょうか↓OK・だめどちらかの返事
OKのとき 関係書類はのちほどお送りいたします、よろしく願います
②おられなかった場合 何時ごろ帰られますでしょうか?
……時ごろまたお電話してもよろしいでしょうか? 失礼いたしました
4月12日 抽選会(松山)
○出席
○定例幹事会の議事録の誤り 西日6月10日↓6月7日
○登録費の紙回収
○全日登録用紙↓わすれた
○名簿
○登録用紙メンバー表は登録費を出すとき提出



○女子抽選→女子大は登録費を払う
○男子抽選 下限8名を忘れるな！
事前に各コート別に人数を決めておく
全体の人数を抽選の前に調べておく→トーナメント表で消せるとは消す、そのとき抽選用紙をぬきとること

選手数の多い大学から抽選、上限より人数の減る大学を調べる→人数調整
下限8名出る大学を調べる
注意 今回は人数比例を使用して第1回目だったのとまどった

各大学の人数を各コートに当分に分配して行なった(例) 広大なら21名をコート1234
6555名と分配した
コートごとの総計をそろえる

4月13日 抽選会欠席校へ抽選結果を送る(河野)
○抽選結果を隅田会長のところへもって行く
↓修大の岡野より隅田会長へうかがうことが連絡済み

○ついでに挨拶文をうけとる
○10日に大会へ出席されるか↓出席される
4月13日8時 大森先生へTEL
○審判員補充
○抽選結果 4月14日山陽高校の武道場へ
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー

4月14日3時 山陽高校剣道場にて
○審判員補充
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

岡山で定着
するようには
なっていない！

4月15日 西日の大会要項来る

○男子を登録している大学に送るように↓河野へ
○西日の日程変更
↓植田先生……抽選会の結果といっしょに
↓隅田先生……おそくとも大会のとき
↓大森先生……審判員コート割当のとき
↓各大学……送るときに一言入れておく
○全日名簿・幹事名簿↓欠席校へ↓河野へ
○保険のメンバー表など確認↓保険は全面的に河野にまかせる

○審判員打ち合わせ事項作成に着手
4月16日 審判員決定
審判員長 山根昇(岡山)
審判員主任 中西(広島)・酒井(愛媛)・腰山(高知)・堀江(徳島)・福田(島根)
審判員 広島7名 佐伯・野崎・吉田・椿田・永田・矢内・近藤
岡山2名 杉本・山洪数
山口2名 柳・突貫
香川5名 天野・池田・松井・大山・秋山
鳥取1名 湯村
徳島1名 塩田
高知2名 大塚・門田
愛媛10名
計 36名

追加の先生方の住所、氏名などを松商へ送る
4月16日 大森先生にTEL
広島、福井・田原先生が出られるかもしれないとのこと
審判員の最終決定はまだ
4月20日 石川にTEL
審判員最終決定は4月28日(火)まで
幹事長のあいさつ文(今週中) 3500~4000字くらい
4月22日 石川にTEL
門田先生の氏名を知らせる
広島、福井の審判員の未決定分を早く！
明日大森先生にTEL
幹事長あいさつ文を送った(5000字)
愛媛の審判員の氏名を送ってくるように

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

研究室に配属になった
まかりでたいへん忙しい！
この時期が第一の関門のようだ

4月23日 大山よりTEL
あいさつ文は？送った
パンフレットは印刷屋へ↓審判員のところはまだ
↓出してもよい、校正で直す
4月24日 大森先生にTEL
○田原・福井両先生は都合が悪いとのこと
○37名で決定
○愛媛の審判員名がわかりしだいコート割り当て
○審判員打ち合わせ事項を早く作る
宿泊、広島、松島さんよりTEL
4月25日 松島さんよりTEL
8月30日に広島県でミニ国体？があるらしい
日程変更はできないか↓検討をしてみる、来週中にTEL
4月28日 大森先生にTEL
ミニ国体のこと↓剣道はなし↓よく話し合ってみよう
コート割り当て、審判員打ち合わせ事項↓明日の練習で
4月28日 石川よりTEL
○広島先生の宿泊について
○審判員について(内訳)
4月29日 大森先生と(道場において)
コート割り当て
審判員打ち合わせ事項
場外反則の項はいらない↓もはや規定してある
開始線の項はいらない↓
団体戦の礼の位置↓個人戦の礼の位置と同じ
二刀は認めない↓同時に2本の竹刀を使用することは認めない
京都大会での宿泊所とTELナンバー↓
7時すぎにTEL
西日の日程変更↓
西日に大森先生は来れないとのこと(日程変更のため)
隅田会長の宿泊所↓貯金会館の下(公立学校共済会館？)
審判員の氏名はアイウエオ順にすればよい

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項
○新人戦趣意書コピー
○審判員打合せ事項

判員コート
当てのところに
も入れた方がいい

言うのを
わすれていた、
失敗！

第三十七回中国学生剣道選手権大会
第二十二回中国女子学生剣道選手権大会



第三十六回中国学生剣道選手権大会
第二十一回中国女子学生剣道選手権大会



第三十五回中国学生剣道選手権大会
第二十回中国女子学生剣道選手権大会



第三十四回中国学生剣道選手権大会
第十九回中国女子学生剣道選手権大会

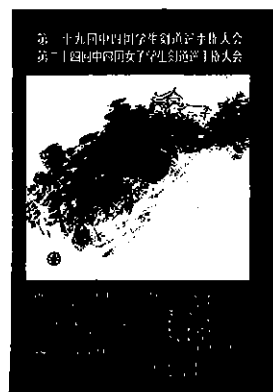
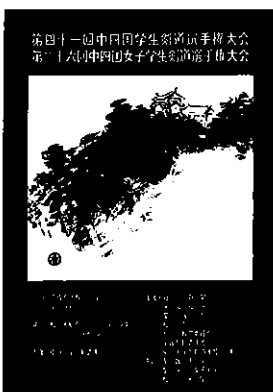


○これからすること
隅田会長にTEL→大会には何日に何時に行かれるか→大森先生に知らせる
西日の日程変更
永田先生にTEL→学生といっしょに泊まられるか→YES→そのま(石川へ)
↓NO→ナニワ屋(ッ)
7時すぎ大森先生にTEL
石川にTEL→隅田会長の宿泊所
・審判員氏名をアイウエオ順
・永田先生(広島先生も)の宿泊所をまだ決めない↓決まり
・植田先生へ審判員会議の案内を送ったか
松島さんにTEL→ミニ国体の担当の人を教えてください
その人にTEL
審判員打ち合わせ事項清書
審判員コート割り当てを作る
愛媛の先生の氏名 酒井・青野・石田・青木・白方・竹長・渡辺・保持・片岡・矢野・川村・武知以上12名
審判員は計37名で決定
反省 コート割り当てをしてもらうときはリストアップをもつて行った方がいい
先生の年齢などを聞かれるとわからない
審判員打ち合わせ事項は早めに作ること
日程変更など必ず知らせるように、つい忘れていた
隅田会長のことをコロッと忘れていた、大森先生に指摘を受ける
4月29日 隅田会長へTEL→宿泊所はまだ分からない↓5月2日(土) 8時ごろTEL
大森先生へTEL→075-1771-3818タ
ンゴ屋(京都大会)
審判者会議の知らせがまだ
永田先生へTEL→宿泊は
工大といっしょ↓石川へ
4月30日 石川にTEL
○植田先生には案内を送ったとのこと
○隅田先生の宿泊所を用意すること↓土曜の夜わかる

今日、防具を見たら
カビが生えていた
仕事で一段落したら
練習に出よう

○審判員をアイウエオ順に
4月30日 山崎よりTEL 保険金1人1160円
4月30日 岡野よりTEL 隅田先生の宿泊所がわかったとのこと
シャトーホテル松山 三番町9-6 0899-4612111
常広さんといっしょ
5月9日3時すぎ広島発の水中翼船、5時ごろにはホテル着
5月3日 岡野よりTEL
隅田先生は急病で行けないとのこと
5月4日 西日の抽選会
注意：宿泊するようになるので用意をしておくこと
宿泊費は九州連盟より出る、交通費はこちらもち
5月5日夜 愛大よりTEL、西日の大会要項他が来ているが↓あすまたTELする
↓西日の抽選会はもう終わった、愛大は出場できない(だろう)
明日河野に聞いてみる
注意 西日の大会要項を送るとき、出場校には必ず中四へ連絡をするように(反省)徹底すること
昨年出場した学校は確認した方がよい
5月6日 東洋工業体育館(松島さん)へTEL、8月30日に決定
5月6日 石川よりTEL、なにわ屋900円高、こちらが私
○隅田先生は行かない
○前日のリハーサルするときコート主任を集める
○選手宣誓はだれ、松商にたのむ↓あすTELするとのこと
5月7日 大山よりTEL
選手宣誓は広大へとのこと
ストップウオッチ2個
5月8日 大会にもっていくもの
○審判員打ち合わせ事項
○審判員コート割り当て
○ストップウオッチ3個
○女子優勝カップ

○金
○新人戦趣意書
山崎へストップウオッチ・女子優勝カップをもつて行くように、金も
宮川へ選手宣誓を依頼
5月8日 電大よりTEL
部員が交通事故により死亡のため、中四には出ない
5月9日 松山ですること
○大森先生に隅田先生が来られないということ伝える
○大森先生に審判者会議の内容を確認
○3位決定戦までの試合方法検討
○高橋とアナウンス内容チェック
○タビ・サポーター願、オーダー表などの確認
○岡野へ、隅田先生へ西日の日程変更を伝えるように言う→試合結果報告の時でもよい
○大森先生に矢内先生は来られないことを伝える
5月9日 3位決定戦までの試合内容
ベスト4(コート決勝)まで行なう→コート主任
そのあと1・3位決定戦
コート主任へ言うこと
○コート決勝まで行なう
○そのあとすぐ3位決定戦(コート3位決定戦)
決定戦のコート審判が発表されたあと、あいたコートで(3位決定戦つづき)
○決勝戦(あいたコートで3位決定戦)
○試合開始は審判長の笛の合図で行なう→選手に徹底させる
5月9日 審判者会議(1時30分~3時) 1時30分がよい
○大森先生挨拶
○山根審判長挨拶
○封筒内のチェック→審判員コート割り当て訂正
○審判員打ち合わせ事項について
1項目ずつ読み上げ……それについて審判長よりコメント、質疑応答
○大会要項説明(進行の都合上、打ち合わせ事項のとき読んだ)
パンフの間違い訂正 p45大会要項・p46(女子)



竹刀400g以上)を加える・P4男子団体戦↓
女子団体戦

○本日の日程説明 午後3〜4稽古会・午後4〜
懇親会

○交通費請求書回収

※会議に入る前に大森先生・審判長と打ち合わせ
をする

5月9日 代表者会議(3時〜4時)

○大森先生挨拶

○山根審判長挨拶

○審判者会議決定事項発表(打ち合わせ事項読み
上げ)

○大会要項通知

○メンバー交代受付↓小崎に知らせる

○明日の時刻通知(竹刀計量7時、開始時刻8
時)

○タビ・サポーター使用願い及びオーダー表(女
子団体)をくばる

↓本部へもってくるように↓本部より審判主任へ
○追加登録↓「このあとのロビーで行ないます」

※代表者会議の前に審判長と打ち合わせ

松商に時間をしっかり確認しておく(審判者1
時30分〜3時30分・稽古会3時30分〜5時・懇親
会5時)

5月10日 大会当日

6時30分旅館出発 少し歩いてタクシード
6時50分体育館着

リハールサルの時にリボン・パンフ・タオルなどの
受付備品を用意する

本部にもパンフ・タオル

(隅田先生・植田先生用のパンフ確保
した方がよい
審判長フエ

当日はくればよくて
よくこと！は有
ノートに

リハールサルの時に総務委員に試合順の説明↓コー
ト決勝のあとコート3位決定戦、そのあと準決勝

・決勝
修大より兵隊4名

パンフが周
回したら、
もっとしっか
り校正を！

トナメント表で選手氏名の
抜けているところ2ヶ所
誤っているところ2ヶ所

本部席の
うしろはだれも
入れさせない！
選手もダメ、
進行は可

開会式が済んだら審判長の笛の合図で開始

そのあとは大森先生の横ですわって待機

うしろに兵隊をつかせる↓試合の進行状況などを
調べたりうしろにたまる人をのぞく、その他いろ
いろ

先生方が途中で来られることあり

リボン(受付)・スリッパ・パンフ・タオルをお
わたしする、(よろしく)挨拶

行進前にならばさせるエキスパートを決めておく
(ハンドマイク要)

今回は村井さんがすべて行なってくれた(10人位)
12時〜12時40分

昼食時間をとることあり、用意をしておく(人を
準備させておく)

弁当・お茶

準決勝・決勝に近づく審判長に審判員を聞く
今回の場合は時間があつたので、3位決定戦をさ
きに行なう

女子の試合がおくれるので注意

終わりに近づく閉会式準備(賞状など)

全日・地域対抗出場者が決まったあと、出場する
か否かを聞く

↓かならず出場するように言う、全日に出るなら
地域対抗へ出るように

5月12日 試合結果を植田先生と全日へ
○記録用紙は2枚1組にしてカーボン紙でうつす
ように

1枚↓審判主任(秋の場合は優秀選手選考)
1枚↓本部

○試合結果はキレイなものを作る↓先生方へ送る
ため

今回はいかにも広大が記録したように

広大のところに○印がある
5月16日 かげで熱が出る

5月17日 隅田先生へTEL

前日のビールの飲み
過ぎがたたっている

明日試合結果と西日抽選結果をもっていく
12時30分研究室で

河野へTEL

岡野へTEL(これないとのこと)

大会が終わると気が
ぬけて生活が乱れる、
気をつけるように！

5月18日 隅田先生研究室訪問

5月22日 西日抽選会結果↓大森先生・植田先生

5月27日 審判長へのあいさつ文をわすれた！
絶対わすれないように

5月30日8時 西日のため博多へ出発(with
選手)

福岡市民体育館へ

○前日にすることは代表者会議に出て中四欠席校
の分をとっておく

○欠席校があれば旅館まで行って代表者会議の内
容を知らせる↓欠席校なし

○コンパ(自己紹介)

地域対抗と全日(選手権)の審判員や選手のこと
について東海と関西連盟のものに聞く↓書類をう
けとる

5月31日6時30分 起床

○連盟のものは各連盟の大学を整理させる
石川(松商)に地域対抗に出る四国勢はどうなっ
ているかを聞く↓まだ決まっていな

○記録は河野にまかせる
○できるかぎり手伝う

○中四勢の戦況を観察↓結果報告の時に使う
開会式がすんだら帰る(北九州幹事長・大野他に
あいさつ)

全日 審判員1
東西対抗、選手特徴及び補欠1

選手宿泊は連盟単位で
地域対抗 審判員1

広告6月20日必着

6月1日 今月する事

①広告取り↓河野へ

②後援回り↓新人戦の組み合わせ

③地域対抗選手確定↓石川

④全日補欠決定

⑤全日・地域対抗審判員決定

大森先生

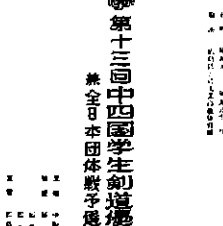
第四十回 中国学生剣道優勝大会
五月十一日中国女子学生剣道選手権大会

魂



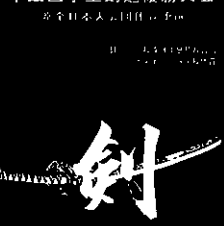
第十三回 中国学生剣道優勝大会
兼全日本団体選手権大会

第十三回 中国学生剣道優勝大会



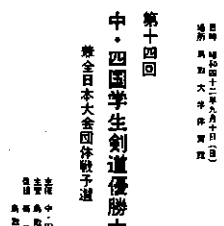
第四回 中国学生剣道優勝大会
兼全日本団体選手権大会

第四回 中国学生剣道優勝大会



第十四回 中国学生剣道優勝大会
兼全日本団体選手権大会

第十四回 中国学生剣道優勝大会



7月15日までに人数他を確定すること(宿泊申し込みをする)

申し込み用紙に当日バスに乗るように書くもし乗らなくてもバス代は払うようになる予約金といっしょに集める

6月20日 毎日新聞社にて(時間の伝達不行きとどき)

後援をお願いする→OK

新人戦↓言っておくとのこと

河野に全日の宿泊

and岡山に後援をはじめのことを伝えるように

6月21日 大森先生にTEL

全日は一応宿泊をとっておいてほしいとのこと

地域対抗は出られない

6月22日 幹事会案内(抽選会)

○大会参加料男

女

○大会援助金1校

○広告援助金1校

メンバー表(男女保険用)

宿泊申し込み用紙

各大学に送るもの

○幹事会案内

○宿泊申し込み書

○メンバー表

○広告契約書

7月2日 広告契約書を送ったか?(各大学)

7月1日夜TEL

全日 植田先生は行かない

地域対抗には先生方はまったくこれない

佐伯先生(審判員)のみ

今週すること

○広島ホームテレビ 後援

○川島旅館 人数確認(料金も)

○地域対抗の予算を決定する

毎日新聞に趣意書を送ったか?

○大会予算案を作成

○大会要項を作成

○審判者会議・代表者会議 使用場所確認

○懇親会 場所確認

男子が出場するかしないか確認→0人

○女子参加人数確認
新人戦趣意書

地域対抗タレネームはできたか?

植田先生に胸突き有効を伝える

7月3日 広島ホーム後援願い

川島旅館45名程度

7月4日 11時大阪着 広大といっしょに旅館

連盟員の旅館わからず

関西連盟へTEL→市立中央体育館へ行く2時30分着

審判員の先生、宿泊費はでない→用意しておく

審判員の先生とよく連絡をとっておく(日程の知らせはあったか? など)

代表者会議に出席(中四全校出席)

7月5日 全日(大阪市立中央体育館)

○入場行進集合の手伝い

○審判員の先生の交通費

○大森先生接待

○大森先生交通費(2万円)

○記録をとる

○御礼状をうけとる

○打ち上げ出席

7月6日 隅田先生・大森先生・植田先生・山洪

先生礼状

結果報告

7月7日 地域対抗場所変更の調査→河野へ

地域対抗予算作成→小崎

7月11日 名古屋へ 朝小崎より金をもらうこと

になっていたが小崎来ず!

愛知県スポーツ会館へ練習

名古屋観光会館へ→代表者会議

佐伯先生に挨拶できず!

7月12日 地域対抗当日

佐伯先生に挨拶

選手の出場順確認

試合結果を記録→小崎

合計は30万以内におさまる

当日宿泊

7月13日 帰宅

7月14日 BOXに行ったがだれもおらず!

○大森先生・植田先生・隅田先生 結果報告

○佐伯先生 礼状

○中四 宿泊及び女子の参加人数

○体育館を8月1日・20日までかりる(会館休み)

○中四男子参加校確認→コートと6面にするかし

ないか?→審査員の数は?

7月20日 夏休み終わり

昼BOX

○大会要項

○予算案

○全日・西日・地域対抗 結果コピー

○川島旅館42名

○かけた屋 今まで来ている分十予約金をもって

行くように→河野

これからすること

○審判員へ 審判者会議・懇親会・OB稽古会案

内・宿泊申し込み・ハケン依頼

○パンフレット作成

○審判員礼状

○手ぬぐい台字→隅田先生(岡野)

○東洋工業体育館正式契約

○審判員リストアップ

○案内状・委嘱状・趣意書

○代表者会議案内

○オーダー表 タビサポーターは作らない(ウラ

にゴムがなければOK)

○保険→河野

7月22日 1時集合

岡野にTELすること 隅田先生に台字・挨拶文

↓OK

下田さんにTELすること 去年の記録→なし

大森先生にTEL 審判員リストアップ→26日夜

抽選会準備済み

7月23日 抽選会が終わってからすること

審判員リストアップ(大森先生にTEL 26日夜)

東洋工業体育館で正式契約

審判員関係書類、印刷(審判者会議案内・審判打

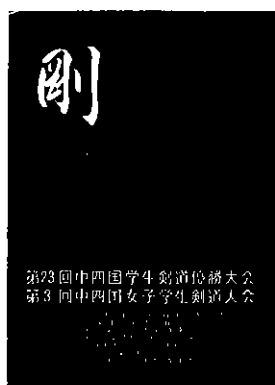
ち合わせ事項)

パンフレット作成

選手名札確認及び作成

岡野の台字が来しだい手ぬぐい依頼(8月はじめ)

TV局の物品確認 済 tss (メダル)



こちらで注文し領収書をわたす

広テレ(たて)

宿泊手配 OK 河野にまかす 計343名

審判員へ確認のTEL

これが終わると審判員名札及びパンフ

コート備品などチェック

7月23日 1時集合

宿泊申し込み及び派遣依頼 ハガキ45枚 済

オーダー表 済

○抽選会で配るもの

・大会要項

・男女組み合わせ

・予算案

・大会結果(西日・全日・地域対抗)

○抽選会で集めるもの・金

・男女メンバー表

・保険用メンバー表

・広告(県外大字)

○抽選会で話すこと

・上段に対する胸突きについて

○岡山大に趣意書をわたす(進行状況を聞く)

(新人戦)レプリカもわたす

○高知大・香川大の宿泊→河野にまかす

○四国学院大 職域別大会に出るようになるかどうか?

○修大にレプリカをわたす

○県内各校に27日の役員を依頼すること

抽選の仕方

男子①シード校から引く(シード校の確認)

②他校を引く

女子①10名の大学より引く(人数の確認)

○多数の大学より引く

○1回戦当たらないければOKとする

抽選会目次

①出席(男子参加校数の確認)

②配布及び女子人数の確認(多い大学から手をあげさせる)及びシード校の確認(岡大と山大に聞く)

③大会結果報告(このような結果になりました、

全日の壁は厚い)

④代表者会議案内確認

⑤予算案発表(読み上げはしない、拍手で承認)

⑥要項読み上げ

選手変更を代表者会議前々日(27日)本部必着とする

⑦抽選 女子

男子

⑧集金

胸突き・女子の竹刀

7月25日 1時集合

一応6コートで計画

女子のくじを作る

新人戦趣意書→高橋

7月26日 12時集合 準備をして門のところに1年を立たせる

抽選会

全ページ目次通り行なう

女子の人数が決まらずゴタゴタする

案外と抽選は早く終わる

接待 女子2名 村本・和田

会計 男子1名 土居

黒板 2名 津田・?

抽選をする箱をもつてまわる 1名 平田

回収 2名 橋岡

来てない大学は代わりに抽選(承認を得る)

7月29日 1時集合

選手名札確認作成

後援の物品の確認→河野

7月30日 1時大森先生宅(with 河野・小崎)

○審判員打ち合わせ事項

○抽選結果

○審判者会議案内

○リストアップ

7月29日 かけた屋よりTEL

審判員の宿泊について

30名前後とのこと 審判員はまとまって泊まってもらう

大学と同宿希望削除

7月30日 3時 東洋工業体育館

正式契約 約13000円

当日のことを打ち合わせ 土9時~17時

日7時30分~17時

駐車場について 整理する人間をつける→河野へ

ゴミの処理

7月30日 審判員の先生にTELしはじめる

杉本先生 OK

福田先生 OK

腰山先生 OK

突貫先生 OK

河元先生 OK

山洪保雄先生 OK

山倉先生 OK

7月31日 体育会へ引越 1時集合

パンフ作り1時~5時

あす話し合うこと 「のつば」の金1人4000

↓?

8月1日 1時集合

パンフ 役員をのけて完成→高橋膳写堂へ

審判員の封筒作り

入れるもの○審判者会議案内

○案内状・委嘱状・趣意書

○審判者会議出席のハガキ

県内の先生には懇親会4000円を示す紙

広島 榎田OK・下田OK・野崎OK

香川 大山OK

大森先生にTEL

山根先生に代わって永田(広島) 082913

615041

青木先生に代わって鶴井(山口)→英国 ボツ

あす

植田先生に審判者会議案内など送ったか?

のつば4000→2500程度

人数はいくつ? 40程度

隅田先生に手紙のあいさつ

校正はいくつ? 8月18日ごろ

審判員用封筒・各大学用封筒・審判員名札・手ぬぐい(8月4日) 400枚

審判員用くつ下50 弁当の手配→サラヤ広告 進行時間の決定 済 行進曲 大森先生と広告

入れたあと
もう一度確認を
忘れるな!

第28回中四国学生剣道優勝大会
第13回中四国女子学生剣道選手権大会

立志

第27回中四国学生剣道優勝大会
第7回中四国女子学生剣道大会

尚武

第25回 中四国学生剣道優勝大会
第5回 中四国女子学生剣道大会



中四国学生剣道連盟
中四国女子学生剣道連盟

闘

中四国学生剣道優勝大会
中四国女子学生剣道選手権大会

- パンフ校正25日
○テープレコーダーをかりる(小林)
8月24日 プラカード作り
各大学封筒○パンフレット
○手ぬぐい
○リボン(主務 緑・監督 赤)
審判員封筒○名札(バッヂ)
○パンフレット
○審判員打ち合わせ事項+コート割り
当て
○手ぬぐい
○運賃請求書
○リボン
○ビニール袋
○靴下
○剣道試合規則通達1号
参与・顧問・顧問医師
○パンフ
○手ぬぐい
○ビニール袋
○靴下
会長・副会長
○パンフ
○手ぬぐい
○ビニール袋
○靴下
8月24日 各コート備品
○ストッブウオッチ 1
○ボールペン 2
○マジック 赤黒各1
○タスキ 赤白各4
○リボン 7 (色は何でもよい)
○記録用紙 試合数に応じて
○笛(音色の異なるもの) 1
○時計旗 1
○カッター 1
○カーボン紙 4
○40cmの棒 1
○セロテープ 2
各コート掲示 審判主任・記録・時計
○勝敗 14

- 引き分け 7 先・中・大・次・副・三・五
○注意 14 大きいコートの数の札Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、
……(7)
○反則 28
受付備品
○マジック 黒太1
○リボン 会長1・副会長3・審判長1・審判主
任6・顧問6・審判員38・参与6
○ボールペン 2
○チェック用パンフ 2
○パンフ・手ぬぐい余り
○ビニール袋 靴入れ250
○審判余りの封筒
○顧問・参与の封筒
8月24日 本部備品
○マジック 赤黒各1→多数
○オーダー表
○審判長用笛
○ボールペン 赤黒
○封筒
○賞状 10→優秀選手・4→男子・4→女子
○筆 太細
○レプリカ
○ハサミ
○ボール紙・モゾウ紙予備
○カッター
○マジック(小)
○ストッブウオッチ(予備) 1
○リボン余り
○ぞうきん→中川
○お茶
○記録用紙
○パンフレット
○手ぬぐい
○墨汁
○賞品
○本印(賞状用)→本部印
○ホッチキス+針
○タイトル(題字)

- 審判旗(18)→予備
○タスキ余り
○靴下余り
○学生役員コート割り当て
○掲示余り
○本部掲示物
○おしピン
○古新聞
○ポリ袋 40
○ゴミ用バケツ 20
○ビニール袋 600(靴入れ用)
○セロテープ
本部席
会長・副会長・審判長・来賓・参与・顧問・顧問
医師
審判控え室 会計・記録
本部
女子更衣室
8月24日 各大学・審判員封筒チェック
各コート・本部・受付備品チェック
学生課へ物品借用手続き→山崎
※計画書 要→学生課
29日・30日校内通行証手配→山崎
2次リーグ用星取り表・決勝トーナメント表作成
あずすること 校正→審判員名
校正用パンフ(大会時間)
広告(電大・松尾)
広告全体
審判員コート割り当て
工大 近藤→丸本真司 1年18歳 工 2段
かげた屋横川2丁目6→14 31→11122
島根大
鳥取大
福山大
徳島文理大
◎徳島大まだ
◎バス8時体育館着
- 派遣依頼書とともに大会要項
を入れてなかった→追加郵送。
来年は忘れないように!

第37回中四国学生剣道優勝大会
第17回中四国女子学生剣道優勝大会

得自練百

○主 会 長 中四国学生剣道連盟
○主 会 場 広島県立広島工業大学
○主 催 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟

第35回中四国学生剣道優勝大会
第15回中四国女子学生剣道優勝大会

剣心

○主 会 長 中四国学生剣道連盟
○主 会 場 広島県立広島工業大学
○主 催 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟

第34回中四国学生剣道優勝大会
第14回中四国女子学生剣道優勝大会

心練

○主 会 長 中四国学生剣道連盟
○主 会 場 広島県立広島工業大学
○主 催 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟

第33回中四国学生剣道優勝大会
第13回中四国女子学生剣道優勝大会

求真

○主 会 長 中四国学生剣道連盟
○主 会 場 広島県立広島工業大学
○主 催 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟
○主 協 中四国学生剣道連盟

仕事を済ませた時は
ソク→幹事長。

※注意6

○今年注意したこと。参考程度に！

○春の大会で、コート割り当ては早めに！

○地域対抗は早めに4年が出るかどうか確認する就職以外は絶対出場させるように(出場するのは義務である)。

○地域対抗の予算を立てておく。

○西日などの大会のパンフレットを持って帰ることに。（先生方に送るため。）

○西日には名刺を持って行くように（河野も）。
○秋の大会で賞品願いは各局に書いて提出。

各局の賞品内訳も書く↓ホームテレビには最後に行く。

○趣意書・委嘱状・案内状（大会要項）・前回パ
ンフを局と社長（局長）へ。

○大会へ行ったら酒を忘れないように。

○抽選会へ行ったらみやげを忘れないように（もみじまんじゅう）。

※注意

○各大学幹事名簿も確実なものを作る。↓最終幹事会ではつきり書かせ、連絡方法も書かせる。

※注意

○大会前日の会場設備や、大会当日の注意は梶田ノートを見よ！

※注意9

○仕事は決して一人でするな！ 後々必要であるから必ず見させておく。

※注意
10

○1年間全体の注意は梶田ノートの注意を見よ、

連盟が行なう大会がどのように推移したのかを開催形態、会場・場所、日程・時期などをもとに整理しておく。詳しい戦績は表を参照していただきたい。

1、中四国男子学生剣道優勝大会

もつとも古くから開催された大会であり、

昭和二八年の松山商科大学の優勝から始まっている。同年は全日本学生剣道連盟が結成された年であり、第一回全日本学生剣道大会が東京神田で開催され、中・四国からは松山商科大学が参加している。

昭和二十九年の記録では松山商科大学が優勝二位が高知大学となっており、この年に行なわれた第二回全日本学生剣道大会には松山商科大学と高知大学が参加している。

昭和二八年二九年當時は剣道の復活という

全国的趨勢に伴つて、中・四国では任意に整
校の大学や個人が大会に参加していたと思わ
れる。島根大学教授、福田明正著「島根県創
道概史」によると組織化の始まりは昭和二九
年、広島大学の呼び掛けによつて広島大学、
松山商科大学、鳥取大学、徳島大学、島根大
学、岡山大学、香川大学、海上保安大学校、
広島修道大学の一〇大学とされている。
しかし、本格的に組織として中四国連盟が

この第一回の団体優勝は高知大学であり、二位は岡山大学、三位は香川大学、松山商科大学であった。個人戦では優勝は高知大学の橋田速生が初優勝を飾った。

そして、この結果、第三回全日本学生剣道大会に高知大学、岡山大学が参加し、個人では橋田速生と山田利秋が出場することになったのである。

第二回中四国学生剣道大会は、昭和三十一年九月一六日に岡山県の後楽道場で開催され、岡山大学、鳥取大学、松山商科大学、香川大学の四大学が参加した。団体はリーグ戦で岡山大学が優勝、二位は松山商科大学であつた個人戦ではトーナメント戦で岡山大学の小沢が香川大学の白神を破つて優勝している。連盟の発足当時は会場・場所や日程については不安定であつた。第一回は昭和三十一年一月一三日、香川で行ない、それ以降一三年後の昭和四十三年までは会場は香川、岡山、徳島、広島、鳥取、山口などの持ち回りの開催となつている。時には中学校の体育館を利用してゐたし、参加校は第一〇回大会で九大学、同一大学からA、Bのチームが出場している時もあった。

期日はおよそ九月であり、優勝大会として単独に開催されたようである。この三〇年から四三年までの一三年間は、男子を中心とし

同志

台時 晚間10時17分 星期四 晴
 台局 風位順向 雲時有雨
 主風 平風 風下生利油風
 浪頭 甚高 浪位性、浪時有風、西風亦吹、浪下生利油風
 北風亦吹、浪下生利油風
 正當 由 14 大 3

敬愛

[illegible]

釗心

発刊 昭和64年12月（第1号）発行
 編集 池田芳子編集委員
 印刷 中国製本印刷株式会社
 印刷 池田芳子印刷株式会社
 印刷 池田芳子印刷株式会社

鍊心

時期	平成元年12月～翌年「生活の時間」
会場	岡山大学芸術学研究所
主催	中野信子先生記念会
協賛	東京新聞社、岡山県立美術館、岡山県文化スポーツ課 山形県立美術館、瀬戸内海漁業・観光センター、日本美術院岡山支部 岡山県現代美術館
主役	岡本知生郎と森田道平

ながら会場の持ち回り期間として特徴づけられよう。昭和四四年以降、今日までの期間では、二回のみ岡山で開催されるが、ほぼ広島に会場が確定されるにいたる。

この大会は四一回を迎えるものであるが、この間で最も多く優勝をしたのは松山商科大学一五回、次いで一〇回の広島大学であった。また、昭和四六年からは最優秀選手賞の選考が導入されたことも特筆すべきことであろう。

また、昭和四八年には広島県立体育館で二〇周年特別選抜大会をひらき、現役学生と中国四国加盟大学OBと各県代表の参加をえている。さらに、五八年には三〇回記念優勝大会をひらき、この時の加盟校は三六大学を数えるものであった。

年から松山市総合コミュニティセンターとなり、安定した開催場所になっていく。

なお、この大会は四一回を迎えるものであるが、この間で連続優勝をしたのは長榮周作（愛媛大学）、大城戸功（松山商科大学）、菊地廣（広島大学）などであった。

また、全日本学生剣道連盟創立二五周年にあたる昭和五二年の学生選手権大会では、松山商科大学の大城戸功選手がその覇者となる。これは関東・関西・東海連盟以外の連盟から二人目の優勝であり、中四国連盟にとって快挙であった。

女子学生剣道ではまず個人戦（選手権大会）から始まり、第一回は昭和は四四年九月七日に開催され、その後、昭和五六年までは八月か五月に交互に開かれ、昭和五七年以降は五月に固定された。

会場は第一回の四四年から五六年までは愛媛県と広島県で交互に行なわれ、愛媛県である。

間は連続優勝など優れた成績をおさめたものは、藤田恵子（山口大学）、住田靖子（山口大学）、江草幸子（香川大学）、石原真紀（広島大学）、中塚美枝（島根大学）、神谷圭紀（松山大学）などであった。

第一回女子優勝大会は、女子の個人戦（選手権大会）から遅れること五年後であり、昭和四十九年九月八日であった。

その後、女子の優勝大会は女子の個人戦と同じように昭和五六年の第八回までは、男子の優勝大会か選手権大会に会場も期日も合わせて行なっていた。

昭和五七年からは女子の優勝大会も男子の優勝大会と同じ日、つまり八月で同じ場所、広島となるのである。なお、二一回にも及ぶこの大会で多くの優勝をとげたのは広島大学四回、聖カタリナ女子大学四回であった。

この大会はいまや一四回を迎えるものである。第一回大会は昭和五六年一二月二〇日であり、会場は高松、徳山などの時もあつたがほぼ岡山県で行なわれ、岡山大学か岡山理科大学を会場としている。開催期日は全て一二月であつた。この大会の男子団体戦で数多くの優勝をしたのは広島大学八回であつた。

学歴 平成27年12月分まで（前）中興会副会長
 出身 岡山大学商学社会経済学部
 所属 中国銀行岡山支店
 職歴 岡山県庁、○ＫＣ岡山支店、○ＫＣエース岡
 山支店、岡山県内海漁業、テレビせとうち、岡山県山形支店、
 岡山県建設局、中国銀行岡山支店支店長
 受賞 岡山県優秀行政功労者

日期/平成3年12月6日(日) 甲府会場
 会場/岡山大学記念会館
 主催/中国甲府新聞社
 後援/岡岡岡社・中国岡山商工・中国スポーツ新聞社
 協賛/岡山県・岡山県商工・中国岡山商工・中国岡山商工
 岡山県商工・中国岡山商工・中国岡山商工・中国岡山商工
 中国岡山商工・中国岡山商工・中国岡山商工・中国岡山商工

資料／平成4年11月18日(金)午の7時半開始
 会場／岡山県立大学加計記念体育館
 主役／中園重幸氏(福岡県)
 協賛／福岡県民会、山口県民会、山口県山陽地区・O.H.Kスポーツ振興財団、
 山陽放送、山口県内放送局、テレビ山口、山口県山陽地区民
 間山京利放送局、中園重幸氏放送局O.C.委員会
 主催／岡山県市民連盟

日時／平成17年12月1日(土)午後2時～4時
会場／岡山県立大学中野校舎第101号館
主催／中国語学会岡山支部
後援／新報社・OHK岡山放送・OHKスポーツ新聞発行・
岡山放送・県内放送局・テレビせとうち・NHK岡山放送局
岡山県教育委員会・中国語学会岡山支部・中国語学会岡山支部

まず、第一期は男子の時代とも言うべき時代であり、それは昭和三〇年から四三年までの一四年間である。この間、男子の選手権大会と優勝大会が会場は不安定でありながら開催され、連盟の大会活動の基礎をつくったといえよう。

さらに昭和五六年に第三期としての発展として男女の新人大会を行なうにいたる。このことは男子の発足からは二六年目であり、女子の選手権大会の発足からは一二年目のことであつた。

この新人戦大会が始まった五六年以来、今日まで一四年間にわたって、五月の男女の選手権大会、八月の男女の優勝大会、一二月の男女新人戦大会の三つの大会を基軸として連盟は発展してきているのである。

ここでは現存する大会パンフから会長等の挨拶を引用し、その背景との関係を推察し、どのような歩みがあつたのかを描いてみたい。昭和三七七年鳥取での第六回剣道大会では、三浦百重大会会長は剣道は「勝負を競うに止まらず」、「新制大学の教育目標を達成する上におおきな寄与貢獻」すると述べている。ここには新制大学の発足後、その教育目標を達成することを学生剣道に期待していることを読み取ることができる。

ここでは現存する大会パンフから会長等の挨拶を引用し、その背景との関係を推察し、どのような歩みがあつたのかを描いてみたい。昭和三七七年鳥取での第六回剣道大会では、三浦百重大会会長は剣道は「勝負を競うに止まらず」、「新制大学の教育目標を達成する上におおきな寄与貢獻」すると述べている。ここには新制大学の発足後、その教育目標を達成することを学生剣道に期待していることを読み取ることができる。

昭和三五(六〇)年代当初からの高度経済成長政策の中で人々の生活様式が変化する。また、工業化社会、都市化への推移に伴い公害問題や自然破壊といった状況の中で人々は文化、スポーツへ関心をもつようになる。また、所得倍増と余暇時間の確保という条件もあつて、わが国始めての国民スポーツの発展の基礎をつくることになっていく。

このような背景のもとに昭和三八(一九六三)年の第九回優勝大会の大会会長の大泉行雄氏は、「スポーツが盛んになり、日本古来の武道である剣道が年を追って活況を呈しておりますことは、単に勝負を競う技であるに止まらず、むしろ厳しい日々の練習のうちに、人間形成という教育目標を達成する上に、多大なる貢献をするものである」と述べている。

さらに知育、徳育、体育のバランスがくずれ、知育偏重という事態も生まれ、特に道徳

三九(六四)年の第一〇回選手権大会は東京オリンピックの年に開かれた。これ以降、国民の体力づくり、スポーツの大衆化と国民的なスポーツ理念が登場し、様々なスポーツ活動が展開されていくようになる。また、大学にとつては大学紛争の時期でもあった。この一〇回大会の会長をつとめた増岡喜義氏は「剣道は苦難の道を歩んだが、一種のスポーツとなり、人口は多くなつた。これは剣道には特殊の性格があり、互いに目と目の直視の中に魂が通じあい人間形成の要素がある」、

「技をねり、技を鍛えることによって益々この境地が深まる」と述べている。ここには単にスポーツ剣道ではない特有な内容を期待していることを窺うことができる。

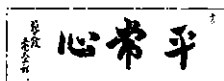
こうした剣道の特有な内容を求めるかのように、四〇（六五）年の第一回選手権大会会長の市川禎治氏は「武道が漸次昔日の姿を取戻しつつあることに期待をしている」と思いを語っている。

四一（六六）年一三回優勝大会では、広島太学剣道部部長、中塚正行氏は「技は人なり」と述べる。

四二(六七)年の一回優勝大会では鳥取大学学長井上吉之氏は「古来の伝統を持つ剣道は『氣・劍・体』の一致、並びに『三先』を要諦とし」と述べる。

さらに四三年（六八）年の一五回大会で、下関市立大学長伊藤迪氏は「剣道は胆力と勇気

第14回中四国学生剣道新人戦



星期四／平成19年12月6日（金） 午後2時30分開始
 会場／新大塚市民会館（新大塚駅西口徒歩5分）
 大塚／中野區平和会理事
 講師／新大塚市民会 山田道雄、GOSUJIグループ代表理事 山崎裕彦、
 江戸川乱歩館、テレビせとうち、JOC岡山支部等。
 岡山県信用保証、中野区平和会理事等GOSUJI会員
 主催／民会連合会 実行委員会

第1回全日本学生剣道優勝大会
21校参加

全剣連の体育協会加盟が承認

中学校の体育教材となる。
しない競技と剣道を整理統

全日本学生剣道大会を個人戦・東西大会と団体戦に分

けて、大阪と東京で交互に行なうことを決定

剣道が中学校において必須
正科

正科
オリンピック東京大会開催

第1回全日本女子学生剣道大会

第1回全日本地域对抗剣道大会

国際剣道連盟の創立総会が
17カ国代表参加により開催

と礼節を重んずるスポーツ」として評価されたと述べている。

これらの会長のご挨拶は、持ち回りの大会の主催者を代表するものであったが、その挨拶をよりかえると新制大学としての課外クラブ、剣道への期待から次第に他のスポーツの発展とともに剣道の特性を明らかにすべく歩みをもって活動を展開してきたことが確認されよう。

昭和四四(一九六九)年の第一六回優勝大会で新たに連盟会長に就任した石田成夫氏は、「私ははからずも前会長の後任者としてご推挙をうけ、本連盟会長の座を汚すこととなり、責任の重大なることを痛感」として就任の挨拶を述べている。

同時にこの年は全日本学生剣道連盟副会長の松本敏夫氏は、同大会に特別なメッセージを送り「剣道は警察剣道、社会人剣道と、学生剣道の三つに大別される」として日本の剣道において学生剣道が果たすべき大きな役割を指摘している。

七〇年代に入り、脱工業化社会、福祉社会、余暇社会、国際社会の到来という世相のもとに市民スポーツや生涯スポーツの時代となる。

四五(七〇)年、第一七回選手権大会で石田成夫氏は「一九七〇年代は宇宙時代、情報時代とまで言われている。このような激しい時代変革に対応していくためには強い体力と高度の精神力が必要」と述べ、激しい時代変革の中での剣道による人間錬成を求めることになる。

また、四五(七〇)年の第一七回優勝大会では「剣の道は、ただ戦いや争いのものでなく、

人間修養の道」であり、さらに四六(七一)年の第一八回選手権大会では「わが国は経済発展をしてきた。その反面、若い者の中に気骨を失い一方に軟弱に陥り、他方には思想的に混乱を呈し、物質的には繁栄したが精神的に滅亡するのではあるまいか」と危機意識を述べ、「日本人にとって精神的に復活が必要」と強調している。

ここには六〇年代後半の東大の安田講堂に象徴されるような激しい大学紛争をへて学生に真の意味での思想を求めること、そして、物質的豊かさに対して人間性が喪失されがちな世相の中で、人間性や精神の回復が剣道やクラブ活動に求められているといえよう。

四六(七一)年の第一八回優勝大会では石田会長は、「剣豪宮本武蔵が剣の道に迷い、自分は剣を通じて何を求め、何を求むべきか、自らの心をみがき、人生の悟りを開いたこと」にふれ自己の修養を学生剣道に求めている。

また、四七(七二)年、一九回選手権大会で「武人はその奥義に達するため心身の鍛錬と修養に励み平常心の深淵を深め」、「山鹿素行の言葉に、士は人倫を只管勤め天下にこれが実現を期すべきと力説した」と述べる。

これらの宮本武蔵の哲理や山鹿素行の人倫の勧めは、「武道は凡域を脱した」と言われる思想を自らのものにし、複雑な社会や激動する時代の中で精神的な自己実現や競争社会特有のストレスに打ち勝つ学生の在り方へのメッセージとして受け止めることができよう。四七(七二)年、第一九回優勝大会で石田会長は「眼は心の窓である。我が眼を通じて相手の人を見、また相手の眼を見て、心の動きを

知る事ができる」と具体的に剣道の活動に即して学ぶべきものを示唆している。

さらに四八(七三)年の第二〇周年記念優勝大会で同氏は、二〇周年を先輩、高段者の試合を含めて開催できることを喜びながら次のように述べる。剣道は「我々日本人の日常生活の中に高度の道徳的意識と、強い精神的基盤を形成してきたもの」であり、「科学技術の著しい進歩、高度成長にともなう物質偏重精神空白の時代にあつて、人間性の回復が強くさげばれているとき、もっとも大切なことは、人間が人間としての誠の心を取り戻すこと」とであると念願しているのである。

また、この時、全学剣道連副会長、松本敏夫氏はお祝いの言葉を兼ねながら、「学生時代に剣道にうちこむ人達にとつては、正しい剣道と、剣道にたいする心のありかたを学び、剣道界発展の推進者として心身両面の修練をする時期」と一層学生剣道への期待を明確にしている。

このように四四年から四八年にわたる石田成夫氏の会長挨拶は一貫して、社会的激動を視野にいたした学生剣道への教育的な期待と情熱であったといえよう。四九年からは隅田哲司会長の時代にあたる。

四九(七四)年の二一回選手権大会で同氏は、「学生が遊民化しつつある昨今とはいえ、大学におけるクラブ活動が他の類似のそれとは異なるなにかがあるに違いない」と述べる。そこには学生生活におけるスポーツ活動の意義を見つめようとする熱い姿勢をみることができる。

ついで、四九(七四)年の二一回優勝大会で

49年	全日本剣道連盟の設立
50年(75)	剣道の理念、剣道修練の心構えを通達
54年(79)	第一回全国スポーツ少年団剣道交流大会
59年(84)	「全日本選手権大会の出場資格を次回より六段以上に制限」
63年(88)	韓国ソウル市8・8体育館で第7回世界剣道選手権大会 大城戸功選手優勝
平成2年(90)	全日本選手権大会の出場資格を五段以上と決定
平成3年	学生剣道連盟、二刀の使用禁止を解除
平成4年	全日本剣道連盟40周年
平成5年	全日本学生剣道連盟40周年
平成7年	この時の加盟校は北海道(40)、東北(29)、関東(102)、東海(37)、北信越(19)、関西(71)、中四国(39)、九州(47)合計304校
	全日本選手権大会の出場資格を20歳

は会長は「第一回の中四国女子学生剣道大会を挙行しうる運び」を喜び、剣道大会の男女一体の組織運営の時代に入ったことを宣する。以降、隅田会長は学生生活の在り方、人格形成における剣道の意義やクラブの活動の重要性を毎年のように問い直し学生に投げ掛けているのである。

五〇(七五)年の第二二回選手権大会では「粗暴を慎み動作の端正、品性の高潔を目指す」ということは、つまり礼を通して自らを厳しく「することであり、「いまや剣道の精神はすべてに通ずるのではないか」と言い切る。第二二回優勝大会では「厳しさを捨ててしまつたら、そこにはもはや、単なるレクリエーション、あるいはスポーツごっこしか残っていない」。また、五一(七六)年の第二三回の選手権大会では「しらくと要領の支配する若人の世界でなにか目的に向かってひたむきな姿は美しい」、「大学では学びの道を修めることが第一義である」等の言葉となって現れているのである。

さらに五二(七七)年の第二四回優勝大会では「現在の剣士諸君には地位も名誉も財力もない。しかし、何物にも代え得ない若さと無限の可能性をもっている」。五三(七八)年の第二五回選手権大会では現代は「人間の尊厳を自覚し、自己啓発をすすめる人間形成が要請」されるところし、「正課教育ではカバーしえない教育活動がクラブ活動を通じてなされている」とする。

五四(七九)年の二五回優勝大会では「青春のエネルギーを剣の道に対して燃焼させる学生剣士諸君に強い敬意をあらう」と学生に温

かい励ましのメッセージを述べている。

五四(七九)年の第二六回選手権大会では「剣道修業の目的は心身を陶冶育成して人格の向上を図り、もって有意な国民となつて国家社会の発展に寄与貢献し得るような人物となること」を力説する。

また、五五(八〇)年、第二七回選手権大会では「青年の多角的行動様式は若者の特権とはいへ、ご都合主義のどうでもよい式の生活になり、そこには自分自身といったものは見当たらぬ、従つてそこからは心底納得でき自信のもてるものはなにも得られない」、「同好会や泡沫的なクラブが増加しているようであるが、この傾向は好ましくない」と現状を捉えている。

これらの挨拶は大学進学率が上昇し従来の大学像が変わり、大学が一種のレジャー化したことへの批判と、さらにスポーツの商業主義的な在り方による一過性の楽しさのみに陥りがちな大学クラブ活動への厳しい意見と思われる。

それゆえに五五(八〇)年の二七回優勝大会では、会長は「人間同志の闘争は生存競争のための格闘から、歴史の流れとともに、文化と結びつきながら独特の内容をもった技術へと進歩した。すなわち我が国においては、剣術や体術となり、第二次大戦後、剣道は武道としてではなくスポーツとして復活をみ、今日の隆盛をみるにいたつた」と剣道の歴史をふりかえらうとする。

また、昭和五六(八一)年第二八回選手権大会では会長は視点を一転して「課外活動の重要性が高まる一方、各種サークルの在り方に

問題がある」とし、「剣道部はもつとも健全にして模範的大学サークルの一つ」である。その在り方は「たんにスポーツではなく武道であり、それも礼と和の武道であるがために」、「対人・対自然の諸関係の中に自己をおく時、その相対性を止揚し越えることによつて絶対なるものを求める姿勢、これは求道」の世界として剣道の特徴づけられている。

ここには勝利至上主義に走りがちなスポーツクラブの在り方を問題にする一方で表層的な楽しさのみを求めるかのようなクラブ活動への疑問を呈し、求道の世界としての剣道の意義を語っているのである。

こうして五六(八一)年の第二八回優勝大会では「剣道部は各大学サークルのなかで最も古い歴史と輝かしい伝統を誇る存在であり、その活動と業績は他の追随を許さないもの」と評価を述べられる。さらに五七年(八二)年の二九回選手権大会では「いかに技が上達し、理合に精通しようとも剣道において、技と理合を真に生かすものは人間の心」であり、「学生剣道の場合、心の錬磨こそ一段と大事、学びの道と人の道に己を厳しく鍛えてこそ、学生剣道のあるべき姿」であると方向づけられるのである。さらに五八(八三年、三〇回)選手権大会では「大学教育の目的が知的訓練と科学的精神の涵養にある」。そして「全人教育の必要性が痛感されている」のであり、「正課授業ではカバーしえないクラブの意義がある」とクラブの意義を再び強調している。同年の三〇周年の記念優勝大会では「剣道が、今や国際的普及をみると共に、竹刀の音は津々浦々まで鳴りひびき、我が国民の精神

当時の世相 マンガ、雑誌等の年表

昭和28年	NHKの東京テレビ局本放送開始
昭和29	プロレス力道山
30(55)	ぼくら、なかよし、リボン
31	鉄腕アトム 鉄人28号
32	赤胴鈴之助 ラジオ
33	テレビ受信契約数100万突破
33	テレビ 月光仮面
34	少年サンデー 少年マガジン 創刊
35(60)	人形 ダッコちゃん
36	大鵬・柏戸
37	テレビ受信契約数10000万突破
38	王・長島人気
39	東京オリンピック ひよこ
40	エレキブーム
41	おはなはん
42	ドリフターズ
43	大学闘争 少年ジャンプ
44	サインはV 8時だよ全員集合 ハレンチ学園
45	三島由紀夫割腹自殺
45(70)	第一回全国家庭婦人バレーボール大会(ママさんバレー)開催
46	菊田一夫脚本、森光子主演 放浪記大ヒット

力・体力の向上に大いに貢献していることは周知の通りである」と発展的状况を述べる。剣道の国際化、そして女性剣道もふくめ七〇年代の後半からの青少年の剣道の普及の成果をみつめ、剣道の国民的使命を述べているのである。

さらにこの三〇周年を祝うべく副会長であった大森玄伯氏は「学問の真理の探求とともにサークル活動において、このわが民族の尊い文化遺産である剣道を愛し、そして精進して、剣道の本質を追求するよう心掛け、正しい剣道を後輩達に伝えるよう、一層の精武を祈る」としている。

また、「現在加盟校も三〇校を超えるまでに成長し、今日の発展隆盛を見ることができたのは、特に歴代の幹事長を始め、各幹事が学生自治の観点から、それぞれ持ち味による運営企画の賜によるもの」と学生の労苦を労っている。

そして「学生剣道の特徴ともいえる『純真な剣道』即ち相手に不愉快な念をいだかせない清らかな気持ちのよい試合を行うように、自分の美しい剣道の具現」を祈っているのである。

また、副会長、植田一氏はこの発展について隅田会長等の連盟関係者に感謝しながら、「剣聖宮本武蔵剣法の特徴は『直道以て極となす』、『修行の第一に、『心に邪なきこと』を思う・世々の道にそむくことなし』をあげられ、直とは至大至剛で、邪なきはこころの迷いなきこと、道にそむくことなきは天理遵法の大精神で、これこそ剣の道の最終のものであるろうか」と剣道の在り方を述べている。昭

和六〇(八五)年の三三回選手権大会では、副会長の植田一氏は「六〇年代に突入」し「世界的に広がってきた剣道を身をもって本来の正しい剣道にたちかえらせ、立派にすすめていくべき重大な時代にたち向かっている」と世界認識を示し、正しい剣道を求めるべきことを学生に期待している。

さらに、具体的に「勝ち進んでいくにはそれなりの人にも増した努力工夫が必要であるし、また、勝ち進んでいく過程の研究は剣道だけでなく社会に出てからもきつと役立つ」と学生剣道の在り方を方向づけているのである。

六〇(八五)年の三三回優勝大会では、会長代理となった大森玄伯氏は、全日本学生剣道連盟の「松本会長は、学生剣道の特徴は、旺盛なる気力にあるといわれているが、スピードのみに頼ることなく、大技でもって打ちを出す決断が必要である、といわれる」ことを引用しながら、学生剣道の技のありようを示唆している。

六一(八六)年の三三回選手権大会では大森玄伯氏は会長に就任する。そこでは「隅田先生が病氣療養のためこの度ご退任になり、全快を祈る」と感謝の意を述べながら、「学生剣道は先と先と攻めたて打つべき機会にそれを逃すことなくすべてを捨てて打ち込む、そして機動性を充分に駆使して行なうのが学生剣道の特徴、特質を発揮し、さわやかさを感じあう試合をおこなうように」と明快に学生剣道の方向をしめしている。

六一(八六)年の三三回優勝大会では大森会長は「清新の気あふれる新人部員を多数むか

えて、鍛錬にまた鍛錬と血の汗を流しての練習を重ねたもの」とし、六二(八七)年の三四回選手権大会では「教養の発露と共に剣の理法にそった正しい剣道を念頭に学生らしい真摯な、そして気力のあふれた潑刺とした試合展開」を期待しているのである。

また、六二(八七)年の三四回優勝大会では、大森会長は、全日本学生剣道連盟の会長であった「松本敏夫先輩が、去る七月二四日病魔のため薬石効なく逝去」したことを偲び、「気概と闘志と、不敗の信念とをもって、学生らしい教養の発露としての知性ある学生剣道」を目指すことをあきらめなかった。

さらに平成一(八九)年の三六回選手権大会では「教養の発露としての剣道を学習するよう、平素から、よくよく工夫し、よくよく鍛錬し、修練を重ねてほしい」と述べ、教養と知性による学生剣道を強調しているのである。

平成二(九〇)年三七回の選手権大会では「学生剣道の真髄を具現し、学生らしい知性のある創造性のある、さわやかな試合を展開」を期待し、平成三(九一)年の三八回の選手権大会では「学生剣道の真髄は、相手を圧倒する充実した氣勢、その旺盛な気力をもって常に先、先と攻めたて、打つべき機会をのがさず、すべてを捨てて果敢に打ち込む機動性を発揮しての試合」と語る。

このように六一(八六)年から平成三(九二)年までの六年間の長きに渡り、名実ともに会長として連盟を指導し牽引された大森玄伯会長は、突如として逝去される。最後まで学生と一緒にあった。

その精神は次の会長を継承した腰山静雄氏

- 46 知床旅情 わたしの城下町
- 47 飯面ライダー ボーリング
- 48 枯紋次郎 瀬戸の花嫁、喝采
- 49 せんせい 子連れ狼
- 50 省エネ ディスカバー
- 51 バン
- 52 オカルトブーム 男はつらいよ
- 53 (75)乱葬時代 暴走族 およげたいやくん 紅茶キノコ
- 54 ジョギングブーム
- 55 王選手権号 マカロニほうれん荘 宇宙戦艦ヤマト
- 56 カラオケブーム
- 57 映画 スターウォーズ デイスコブーム
- 58 インベダーゲーム モン
- 59 チッチ ドラえもん
- 60 (80)モスクワ五輪不参加
- 61 本
- 62 窓ぎわのトットちゃん
- 63 リッツ
- 64 「漫才ブーム」
- 65 E・T パソコンゲーム
- 66 ネクラ エアロビクス
- 67 戸塚ヨット 東京デイズ
- 68 ーランド おしん
- 69 コアラ エリマキトカゲ
- 70 (85)テレビゲーム
- 71 新人類 究極
- 72 マルサの女

が明確に語るように「王者の剣」の具現であった。また、これまでの挨拶をふりかえれば鮮明になるように、学生剣道は教養と知性をもって修練されるべきものであることを私たちに教えたといえよう。

これらのお言葉は最高学府に学び剣道を実践する学生への期待である。そのことはスポーツへの従来の教育・医学的関心あるいは競技的関心から次第に文化的な全人格的な関心に広がり、それは国民の経済・産業の問題や政治の問題となってきたことを抜きに理解できないのではないだろうか。

また、世界・日本スポーツ界の問題が多様化してきたことを視野に入れ、それへ対応できる新たな知性と教養が学生に求められていることを意味していると思われる。

また、剣道界にあつては昭和五〇（七五）年の剣道理念の制定、五四年、六二年の試合規則の改定、国際剣道の広がりなどをもつ一方で、昭和五九（八四）年あたりから高校剣道の人口減少に顕著に現れたような新たな問題を踏まえてのご挨拶であつたと推察される。

平成四（九二）年、新会長になった腰山静雄氏は、三九回の選手権大会で「前会長（常任顧問）大森玄伯先生の御逝去をお知らせする。御冥福を心より祈る」と長年にわたる功労に感謝し、同時に前会長の「学生剣道は、王者の剣であつてほしい」の願いを再確認し、「充実した気勢、旺盛な気力、理に叶った剣道を心がける」よう学生に期待をした。

平成四（九二）年の三九回優勝大会で会長は「全学剣連発足四〇周年記念大会に出場する地域予選会をかねている」と冒頭に述べ、つ

いで「前会長大森玄伯先生の地元での追悼大会であり、先生の御遺徳を偲ぶ大森玄伯杯が新しく寄贈された」旨を報告し学生を激励した。

平成五（九三）年の四〇回選手権大会では、記念すべき四〇周年を喜びながら「剣道に対する情熱と血の滲む修練」を語り、「日頃修練された技術を如何なく発揮し、いたずらに勝敗にこだわることなく、堂々と、しかも風格ある学生剣道」を期待していると述べる。

さらに同年の第四〇回優勝大会では「連盟旗を常任顧問の範士植田一先生に依頼し、剣気の連盟旗が見事に出来上がり、さらなる発展充実を期待するもの」とし、「堂々と王者の剣をもって覇を競い、優勝の栄冠を、さらに晴れて全国大会に出場する榮譽をかけての試合を期待」すると述べている。大森先生の「王者の剣」、植田先生の「剣気」の旗のもとに新たな節目に向かって中四国連盟が歩みを開始していくことを宣言されたのである。

平成六（九四）四一回優勝大会では「四〇周年記念誌の発刊を企画し、編集委員会が鋭意その作業を進めている」と報告し、「連盟旗、剣気のもと、総力を結集して連盟の確かな歩みを記していきたいと念願する」と述べ、滔滔とした連盟の歴史を跡づけ、明日への創造の糧にしていこうと期待している。

平成七（九五）年の四二回選手権大会では「本年は阪神大震災に始まり、宗教事件等多事多難な幕開けで推移」としていると情勢を述べ、さらに「剣道人口の減少が指摘されているが、若人に魅力ある剣道を如何に提示していくか、大きな課題」とし「正しい剣道の実

践者として堂々の試合をし、覇を競ってほしい」と述べた。剣道界の抱える問題の解決と同時に正しい剣道の担い手になるべく、学生に課題を与えたのである。

おわりに

歴代の幹事（長）による具体的な労苦、会長、評議員等による方向の見定め、そして、なによりも、各大学剣道部員の可能性の実現に向かう日常的稽古、さらに審判員等を務める方々の真摯な眼差しによって中四国連盟は構成・創造されてきたと考える。

きたるべき二一世紀の剣道の国際化や国内的普及や高次化という問題は学生剣道の出身者が支えることは、まず、間違いないと思われる。

価値の多様化を認めながら、なおかつ、それにあきたらない独自の世界の構築は、若者の感性と知性にあると信ずる。願うべきは情熱をもって推進してきたそれぞれの方々が、独自性を自由に語ることである。そのことにこだわり続けることによって、中四国学生剣道連盟の発展は、より一層確かなものになると考える。

加盟校の推移

	大学名	加盟年月	旧学校名
1	愛媛大学	昭和32年	
2	岡山県立大学	平成6年11月	岡山県立短期大学
3	岡山商科大学	昭和44年7月	
4	岡山大学	昭和30年10月	
5	岡山理科大学	昭和41年4月	
6	海上保安大学校	昭和35年	
7	香川大学	昭和30年10月	
8	近畿大学工学部	昭和39年4月	
9	高知大学	昭和30年	
10	四国学院大学	昭和54年4月	
11	四国大学	昭和49年4月	四国女子大学
12	島根大学	昭和33年	
13	下関市立大学	昭和38年4月	
14	順正短期大学	平成3年7月	
15	水産大学校	昭和40年4月	
16	聖カタリナ女子大学	昭和53年7月	聖カタリナ女子短期大学
17	高松短期大学	昭和60年4月	
18	徳島大学	昭和40年4月	
19	徳島文理大学	昭和49年4月	
20	徳山大学	昭和52年7月	
21	鳥取大学	昭和31年8月	
22	比治山大学	昭和49年4月	比治山女子短期大学
23	広島経済大学	昭和44年4月	
24	広島工業大学	昭和41年4月	
25	広島修道大学	昭和37年4月	広島商科大学
26	広島女子大学	昭和47年4月	
27	広島大学	昭和33年5月	
28	広島電気大学	昭和54年4月	
29	福山大学	昭和53年4月	
30	松山大学	昭和30年10月	松山商科大学
31	山口大学	昭和32年	
32	就実女子大学	昭和54年7月	
33	宇部短期大学	昭和63年7月	
34	東亜大学	平成2年7月	
35	吉備国際大学	平成3年7月	
36	山口東京理科大学	平成3年7月	
37	山口教育大学	昭和63年7月	
38	萩女子短期大学	昭和4年7月	
39	川崎医療福祉大学	平成4年11月	
40	美作女子大学	平成6年11月	
41	福山平成大学	平成6年11月	

IV 加盟校の数の推移

わが連盟の加盟校は平成六年度で四一校を数える。ではどのような推移をたどって四二大学の参加になったのであろうか。

まず、昭和三〇年代には一二校、ついで四〇年代では新たに一一大学、そして五〇年代

では六大学が新たに加盟している。その後六〇年代から平成六年間までの役一〇年間で一二大学となっている。

つまり、前半の二〇年間で二三大学となり、後半の二〇年間でさらに一八大学が加盟したことになる。特に後半の加盟大学は女子大学を含む私立大学で占められ、昭和五〇年代以来この中四国地域に新しい大学が増えてきたことを反映している。

現在、剣道人口の減少がとりざたされている

るが、加盟校数に限って言えば、この数年の加盟校の多さは喜ぶべきことであろう。しかし、一方では数人という少ない人数や日常の練習をする場所が確保できず、クラブとして認められていないという大学があると聞く。それらの未結成の大学の剣道愛好者に援助し、自立して活動できるようにするために近隣の大学剣道部や中四国学生剣道連盟は努力する必要がある。

V 学生役員、幹事長等と会長、副会長などの変遷（一二二ページ参照）

役員体制を振り返ってみよう。明確な資料にもとづいているわけではなく、聞き書き風なのだが、昭和三〇年代は幹事長、副幹事長は岡山大学（香川大学）によってきたと言われる。

おそらく中四国と全日本学生剣道連盟との連絡役を便利な地域・大学において果たしていたものと思われる。その後四〇年代に入って幹事長は広島大学が務め、四四年におかれた副幹事長は広島商科大学、広島修道大学、松山商科大学となり、五〇年代後半からは松山商科大学となっている。

また、男子局長は昭和五五年から置かれる。岡山大学、広島修道大学、広島経済大学などから選出されたが、五九年以来岡山大学となっている。さらに女子局長は五〇年に置かれるが、広島大学を中心にしながら時によって広島女子大学、岡山大学から選ばれている。一方、会長は昭和三七年からおかれ初代は津田誠次先生、二代は中塚正行先生、三代は石田成夫先生、四代は隅田哲司先生、五代は大森玄伯先生、そして現在の腰山静雄先生となっている。

この間、昭和四五年からは副会長をおき、さらに四九年には二人の副会長制、平成六年には三人の副会長制となっている。また、昭和六一年からは常任顧問制度をもって植田一先生、大森玄伯先生を戴いてきたのである。

VI 連盟規約の移り変わり（三〇二ページ参照）

詳しい内容は資料編の規約の部分にあるので、ここでは規約の大きな流れを見ておこう。

現存するものでは中四国学生剣道連盟としての規約は、昭和四一年のものである。これ以前のものとしては、資料として残っている昭和二九年の四国大学学生剣道連盟（仮称）規約がある。

これは四国地区に所在する大学及び学部の剣道部をもって組織するものであった。その事務所は香川大学におくとされている。

また、この規約の事業の第三項には「全日本学生剣道選手権大会に参加する」とある。この規約がどのように実施されていたかは不明であるが、少なくともこの当時は四国単独で学生連盟を組織し、全日本学生剣道連盟の行う大会に出場しようとしていたことがわかるのである。

ついで、昭和四一年の中四国学生剣道連盟の規約をみるができる。これはほぼ今日の連盟の規約の骨格をなしているものである。そこには会長をおくこと、特に幹事長一名をおき、幹事は各校一名とし、最高決議機関として幹事会を規定している。学生を中心にする機関を構成したのである。

次に昭和四九年の規約では副会長を二名とし、幹事長の他に男子局長、副局長と同じく女子局長をおくことになっている。ここには加盟校が増加し、特に女子の学生剣道の発展

を読み取ることができる。

なお、この規約の罰則では各大学の幹事が無届けで幹事会へ二回欠席した時は警告や権利停止などが規定されている。加盟校が増大しながらも、一方では最高決定機関である幹事会への各大学の幹事の結集がはかばかしくないことが読み取れるのである。

昭和六一年の規約では評議員や顧問をおくこととともに、新たに幹事の中から常任幹事を選出し、常任幹事会を設け会務の企画立案を審議し幹事会に提出するものになっている。ここには最高決議機関である幹事会に対して、常任幹事会で会務を企画立案し、機動的に組織活動をしようとする意思を読み取ることがができる。

また、この規約には評議員会が規定され会長を補佐するとともに幹事会に助言を行うことになっている。こうして、今日に見られるように常任幹事会、幹事会、会長、評議員の基本的な体制がつくられたのである。

この規約の後、平成二年と五年に改正が行われ、平成五年に改正したものが現行の規約となっているのである。